



Sun Update Manager 1.0 管理ガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No.835-0623-01
2005 年 7 月

このマニュアルに関するご意見は、次のサイトからお送りください。 <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、SunOS、SunSolve、SunSpectrum、docs.sun.com、Java、Java Developer Connection、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC の商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスの基に使用される、米国およびその他の国における同社の商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装し、そうでなければ書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

米国政府による使用、複製または開示は、適用される場合は、米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約および、DFARS 227.7202-1(a) と 227.7202-3(a) (1995)、DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998)、FAR 12.212(a) (1995)、FAR 52.227-19、または FAR 52.227-14 (ALT III) の条項の制限に従います。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。

目次

はじめに vii

1. Sun Update Manager の概要 1

Update Manager の概要 1

導入プロセスの概要 2

Update Manager のユーザーインターフェースの比較 3

Solaris アップデート管理の概要 4

アップデートの種類 5

署名付きアップデートと署名なしアップデート 5

Solaris のアップデートへのアクセス 5

Solaris のアップデートのナンバリング 6

Solaris のアップデートを管理するツール 6

Solaris のアップデート管理 8

アップデートの適用に最適な方法の選択 9

Sun Update Connection の機能 11

Sun Update Manager のグラフィカルユーザーインターフェース 11

Sun Update Connection サービス 12

Sun Update Connection プロキシ 12

Sun Update Connection プロキシを使用する利点 13

PatchPro 分析エンジン 14

ローカルモードのコマンドラインインタフェース	15
ローカルモードでのシングルユーザーモードの操作	15
アップデートリストの操作	16
Sun Update Manager の概念	17
Sun Update Manager ツール	17
Sun Update Manager の登録	18
登録サービスのレベル	18
アップデート管理のプロセス	20
システムの分析	21
システムへのアップデートのダウンロード	21
システムへのアップデートの適用	22
システムからのアップデートの削除	22
Sun Update Connection サービスを使用したシステムの管理	23
アップデートのソースの指定	23
アップデートを適用する際のポリシーのカスタマイズ	24
Update Manager の設定プロパティの設定	25

2. Sun Update Connection ソフトウェアのインストール 27

Sun Update Connection ソフトウェアのインストール (タスクマップ)	27
▼ Sun Update Manager の機能アップデートをインストールする方法	29
▼ Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法	30
▼ Sun Update Connection プロキシの機能アップデートをインストールする方法	31
▼ Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする方法	32
▼ Sun Update Connection, System Edition Preview Release を 1.0 リリースにアップグレードする方法	33

Sun Update Manager クライアントソフトウェアのアンインストール
(タスクマップ) 34

- ▼ Sun Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストール
する方法 34
- ▼ Sun Update Manager クライアントエージェントソフトウェアを
停止して無効化する方法 36

3. Sun Update Manager によるシステムの登録 37

Sun Update Manager によるシステムの登録 (タスクマップ) 37

- ▼ システムを登録する方法 38
- ▼ Sun サブスクリプションキーを取得する方法 43

4. Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 45

Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (タスク
マップ) 46

Sun Update Manager GUI へのアクセス 46

- ▼ Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI) 47

GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (タスクマップ) 48

- ▼ ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI) 49
- ▼ アップデートソースを指定する方法 (GUI) 50
- ▼ サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI) 51
- ▼ Sun Update Connection サービス (GUI) を使用してシステムを管理する
方法 52

GUI を使用したアップデートの管理 (タスクマップ) 53

- ▼ アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートの
リストを表示する方法 (GUI) 54
- ▼ システムにアップデートを適用する方法 (GUI) 54
- ▼ インストールしたアップデートを表示して
システムからアップデートを削除する方法 (GUI) 56

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用してアップデート管理環境を
調整する (タスクマップ) 57

- ▼ アップデートディレクトリの場所を変更する方法 (GUI) 58

- ▼ 毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI) 58
- ▼ システムを別のサンオンラインアカウントに割り当てなおす方法 (GUI) 59
- ▼ GNOME デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法 (GUI) 59

5. Sun Update Connection プロキシの設定 61

Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ) 62

Sun Update Connection プロキシの設定 63

Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定する 63

設定の要件 64

コマンドラインインタフェースを使用した Sun Update Connection プロキシの設定 64

- ▼ Sun Update Connection プロキシの初期設定方法 (コマンドライン) 64

例: Sun Update Connection プロキシの初期設定 67

- ▼ Sun Update Connection プロキシの設定を表示する方法 (コマンドライン) 69

- ▼ Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンドライン) 70

例: Sun Update Connection プロキシの設定の変更 70

用語集 71

索引 77

はじめに

『Sun Update Manager 1.0 管理ガイド』では、Sun™ Update Manager クライアントソフトウェア (以降「Update Manager」とします) の目的と機能について説明します。

また、Update Manager ソフトウェアのインストール、登録および使用方法についても説明します。Update Manager は、パッチやアップデートを Solaris™ 10 オペレーティングシステム上で管理するための強固なツールを統合したものです。

Update Manager アプリケーションは、Sun Update Connection System Edition ソフトウェアの一部です。Sun Update Connection サービスおよびプロキシもこのソフトウェアの一部であり、このガイドで説明しています。

注 - パッチおよびアップデートという用語は、Sun Update Manager アプリケーションと本書では同義語として扱います。

内容の紹介

このガイドは 5 つの章と用語集で構成されます。

第 1 章では、お使いのアップデート管理環境で Update Manager の使用を開始する方法を説明します。また、Solaris アップデートの概要やこのリリースの主な機能、およびアップデートを適用する前に知っておくべき概念についても説明します。

第 2 章では、Sun Update Manager クライアントソフトウェアのインストールおよびアンインストール方法を説明します。Sun Update Connection プロキシソフトウェアのインストール方法についても説明します。

第 3 章では、Sun Update Manager アプリケーションの機能を活用するためにお使いのシステムを登録する方法を説明します。

第 4 章では、Sun Update Manager アプリケーションを使用してアップデートを管理する方法を説明します。

第 5 章では、イントラネット上で Sun Update Connection プロキシ（ローカルパッチサーバーともいう）を設定および使用する方法を説明します。

用語集は、本書で使用する用語とその意味の一覧です。

関連マニュアル

- Sun Update Connection 1.0 管理ガイド

1 台または複数の Solaris 10 システムで Sun Update Connection 1.0 のサービスを使用してリモートでアップデートを管理する方法については、このマニュアルを参照してください。

- Solaris 10 リファレンスマニュアル

smpatch コマンドの詳細については、このドキュメントの smpatch(1M) マニュアルページを参照してください。

Sun オンラインマニュアルへのアクセス方法

docs.sun.comSM Web サイトでは、Sun オンライン技術マニュアルにアクセスすることができます。docs.sun.com のアーカイブを参照したり、特定のマニュアル名またはテーマを検索することができます。URL は <http://docs.sun.com> です。

Sun マニュアルの注文方法

Sun Microsystems は、精選した製品マニュアルを書籍として販売しています。マニュアルのリストと注文方法については、<http://docs.sun.com> の「印刷された文書の購入」を参照してください。

表記上の規則

次の表は、このマニュアルで使用されている表記上の規則を示しています。

字体	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	machine_name% su Password:
AaBbCc123	ブレースホルダー: 特定の名前や値と置き換えます。	ファイルを削除するコマンドは rm filename です。
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する用語を示します。	『ユーザーズガイド』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 このファイルは保存しないでください。 (オンラインでは強調箇所が太字で表示される場合があります。)

コマンド例のシェルプロンプト

次の表は、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルのデフォルトシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを示しています。

シェル	プロンプト
C シェルプロンプト	machine_name%
C シェルのスーパーユーザープロンプト	machine_name#
Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザープロンプト	#

Sun 技術サポートへの問い合わせ方法

この製品に関する技術的な疑問点がこのマニュアルで解決できなかった場合は、
<http://sunsolve.sun.com/> にアクセスしてください。

Sun Service Plan に加入している場合は、
<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html> でサポート担当者
の情報をご確認ください。

Sun Update Manager の概要

Sun™ Update Manager ソフトウェアは、Sun Update Connection, System Edition 1.0 ソフトウェアの一部です。このソフトウェアでは、お使いのシステム上でアップデートをローカル管理することができます。以後は Sun Update Manager を Update Manager と呼びます。

この章では、次の項目について説明します。

- 1 ページの「 Update Manager の概要 」
- 4 ページの「 Solaris アップデート管理の概要 」
- 11 ページの「 Sun Update Connection の機能 」
- 17 ページの「 Sun Update Manager の概念 」

注 – パッチおよびアップデートという用語は、Sun Update Manager アプリケーションと本書では同義語として扱います。

Update Manager の概要

注 – Sun Update Manager の使い方に慣れていて、クライアントソフトウェアのインストールへ進みたい場合は、第 2 章へお進みください。

Sun Update Manager には 2 つのユーザーインターフェースがあり、これを使用してシステム上でアップデートをローカル管理できます。1 つは Sun Update Manager グラフィカルユーザーインターフェースで、もう 1 つは `smpatch` コマンドラインインターフェースです。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 2 ページの「 導入プロセスの概要 」
- 3 ページの「 Update Manager のユーザーインターフェースの比較 」

導入プロセスの概要

システムで Update Manager または Sun Update Connection サービスを使用してアップデートを管理する前に、アップデートを管理する際の方針を決定する必要があります。

1. Solaris™ 10 システムに Sun Update Manager アプリケーションをインストールして開始します。

2. 次のうちから、自分のアップデート管理環境を最もよく表す状況を見つけてください。

- クライアントシステムが、直接インターネットに接続されている。
この場合はすぐにシステムの登録プロセスを開始できます。
- クライアントシステムがネットワークプロキシを使用して、インターネットに接続されている。
この場合は、システムの登録プロセスの初めに、ネットワークプロキシのホスト名とポートを指定する必要があります。また必要に応じて、ネットワークプロキシのユーザー名とパスワードを指定します。
- 一部のクライアントシステムが、イントラネット上の Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得するように設定したい。

この場合、Sun Update Connection プロキシとして機能するようにシステムを事前に設定する必要があります。62 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ)」を参照してください。次に、登録プロセス中にプロキシからアップデートを取得するようにクライアントシステムを設定します。

3. Update Manager を使用してお使いの Solaris システムを登録します。

登録プロセス中に、サンオンラインアカウントを入力するように指示するメッセージが表示されます。Java Developer ConnectionSM、Online Support Center (OSC)、MySun、SunSolveSM および SunStore などのプログラムにアカウントの登録を行っている場合は、すでにサンオンラインアカウントを取得している可能性があります。

自分の登録レベルおよびサブスクリプションに基づいて、アップデートを管理する際の方針を決定します。

- **未登録のシステム** — `smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用して、システム上で Solaris セキュリティアップデートを手動で取得および管理します。
- **サブスクリプションなしで登録されたシステム** — Update Manager を使用して、Solaris セキュリティアップデートのみをローカルで管理します。
- **Sun Update Connection で管理するサブスクリプション付き登録済みシステム** — Sun Update Connection サービスを使用して、リモートですべての Solaris アップデートを管理します。サブスクリプションは Sun Service Plan の一部です。Update Manager の GUI または `smpatch` コマンドを使用してアップデートをローカルで管理することは引き続き可能です。

4. Solaris 10 システムでアップデートを管理します。

Update Manager のユーザーインターフェースの比較

次の表では、GUI とコマンドラインインターフェース (smpatch) でサポートされる Sun Update Manager 1.0 の機能とタスクを簡単に説明します。

機能 / タスク	グラフィカル ユーザーインターフェース	コマンドライン インターフェース
システムにアップデートを適用できるか	可	可
リモートシステムでアップデート管理操作が可能であるか	可。リモートシステムで GUI を起動してローカルのシステムに表示することができます。 また Sun Update Connection サービスを使用すると、リモートでシステムを管理できます。	可。ただしリモートモードの smpatch のみ。ローカルモードの smpatch はローカルシステムのみで実行できます。
アップデートのためにシステムを分析できるか	可	可
システム上で予定されているアップデート分析を実行できるか	可	可。cron を使用して smpatch analyze コマンドを実行します。
アップデートを個別にダウンロードできるか	不可。インストールするときに限り、アップデートが個別にダウンロードされます。	可
アップデートの依存性を解決できるか	可	状況による。smpatch add を実行する場合、アップデートの依存性は解決されません。ただし、smpatch update または smpatch analyze -i update-id を実行する場合は、アップデートの依存性が解決されます。

機能 / タスク	グラフィカル ユーザーインターフェース	コマンドライン インターフェース
複数のアップデートを一度に削除できるか	可	不可。smpatch remove では、一度に 1つのアップデートし か削除できません。
システムがシングルユーザーモードのときに実行できるか	不可	可。ローカルモードの smpatch のみで、限ら れた操作を実行でき ます。
Sun Update Connection プロキシにある アップデートにアクセスできるか	可	可
アップデートリストで操作できるか	不可	可
システムに対してアップデート管理環境を 設定できるか	可	可
RBAC をサポートするか	不可	可

Solaris アップデート管理の概要

アップデートの管理には、システムへの Solaris のアップデート (パッチともいう) の適用が含まれます。また、不要なアップデートや不完全なアップデートの削除なども含まれます。アップデートの削除は、アップデートのバックアウトともいいます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 5 ページの「 アップデートの種類 」
- 5 ページの「 Solaris のアップデートへのアクセス 」
- 6 ページの「 Solaris のアップデートを管理するツール 」

ディスクレスクライアントシステムへのパッチの適用の詳細については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ディスクレスクライアント OS サービスにパッチを適用する」を参照してください。

Solaris のアップデートを使用するために推奨される方針と実践の詳細については、<http://docs.sun.com/doc/817-0574/> をご覧ください。

アップデートの種類

アップデートは、既存のソフトウェアの正常な動作を妨げる既存のファイルやディレクトリを置き換えたりアップデートしたりするファイルやディレクトリのコレクションです。アップデートによって、システムに新しい機能が導入される場合もあります。このようなアップデートを、機能アップデートと呼びます。既存のソフトウェアは、**Application Binary Interface (ABI)** に準拠する指定のパッケージフォーマットに基づいているものです。

アップデートは、**Update Manager** アプリケーション、`smpatch` コマンドまたは `patchadd` コマンドを使用して **Solaris** システム上で管理することができます。

注 - システム上でアップデートを管理するには、**Update Manager GUI**、`smpatch` コマンドおよび `patchadd` コマンドを同時に使用しないでください。**Update Manager GUI** が起動しているときは、`smpatch` と `patchadd` で行った変更内容が **Update Manager** で正しく反映されない場合があります。

署名付きアップデートと署名なしアップデート

署名付きアップデートは、デジタル署名が適用されたアップデートです。検証済みのデジタル署名が付いたアップデートは、署名が適用されてからは変更されていません。署名付きアップデートのデジタル署名は、アップデートがシステムヘダウンドロードされた後に検証されます。

Solaris の各リリース用に発行されたアップデートやパッチは、署名付きアップデートおよび署名なしアップデートとして使用できます。署名なしアップデートにはデジタル署名は付いていません。

署名付きアップデートは **Java™** アーカイブ形式 (**JAR**) のファイルに保存されているため、**Sun** アップデートサーバーから入手できます。署名なしアップデートはディレクトリ形式で保存されます。こちらも、**Sun** アップデートサーバーから `.zip` ファイルとして入手できます。

Solaris のアップデートへのアクセス

Sun のユーザーは、**SunSpectrumSM** プログラムを利用しているかどうかにかかわらず、**Sun** アップデートサーバーからアップデートやパッチへアクセスすることができます。これらのアップデートやパッチは、毎日夜にアップデートされます。

Solaris のアップデートは、次の方法で取得できます。

- <http://sunsolve.sun.com> Web サイトからアクセスする方法

Sun Patch ポータルからアップデートにアクセスするには、システムがインターネットに接続され、Mozilla™ などの Web ブラウザソフトが起動可能になっている必要があります。

- このマニュアルで説明する Sun Update Manager ツールを使用する方法
- 『Sun Update Connection 1.0 管理ガイド』で説明する Sun Update Connection サービスを使用する方法

アップデートクラスタから個々のアップデート、またはアップデートのセットにアクセスしたり、アップデートレポートを参照することができます。また、Sun Update Manager を使用してシステムを分析し、適切なアップデートを決定することもできます。また Update Manager では、アップデートをシステムにダウンロードして適用することもできます。

それぞれのアップデートには、アップデートの情報が記載された README ファイルが添付されています。README は Update Manager GUI で表示できます。

Solaris のアップデートのナンバリング

アップデートは固有のアップデート ID で識別されます。アップデート ID は英数字の文字列で、アップデートのベースコードとアップデートのリビジョン番号がハイフンでつながった形になっています。たとえば 118822-02 というアップデートは、SunOS™ 5.10 カーネルアップデートのアップデート ID です。

Solaris のアップデートを管理するツール

アップデートを Solaris システムに適用するには、次のツールが使用できます。

- Sun Update Connection, System Edition のツール
 - Sun Update Manager のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI)
 - Sun Update Connection サービス
 - Sun Update Manager コマンドラインインターフェース (smpatch)
- patchadd コマンド
- Solaris Management Console (smc) のパッチツール (GUI、Solaris 9 以降)

ディスクレスクライアントシステムにパッチを適用する必要がある場合は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ディスクレスクライアント OS サービスにパッチを適用する」を参照してください。

Update Manager アプリケーションは、Sun Update Connection System, System Edition ソフトウェアの一部となっています。Sun Update Connection サービスも、このソフトウェアの一部です。

次の表では、さまざまな Solaris アップデート管理ツールの使用に関する概要を示します。

ツールの使用状況	Sun Update Manager 1.0 および Sun Patch Manager 2.0	Sun Update Connection 1.0	patchadd/patchrm コマンド	Solaris 2.6 および Solaris 7 のパッチ管理ツール	PatchPro Interactive または PatchPro Expert
ツールの入手方法	Solaris 10 の場合 — Update Manager の機能アップデートを適用 Solaris 8 または 9 の場合 — Sun Download Center Web サイトから適切なバージョンの Patch Manager をダウンロード	Sun Update Connection Web サイトからツールを実行	Solaris リリースに付属	Sun Download Center からダウンロード	PatchPro Web サイトからツールを実行
利用できる Solaris リリース	Solaris 8 または 9 の場合 — Sun Update Manager 1.0 Solaris 8 または 9 の場合 — Sun Patch Manager 2.0	Solaris 10	Solaris 2.6、7、8 および 9	Solaris 2.6 および 7	Solaris 2.6、7、8 および 9
署名付きアップデートの適用	可。署名付きアップデートはダウンロード時に自動的に検証される	可	Solaris 8 または 9 の場合 — 可。署名付きアップデートはダウンロード時に自動的に検証される	可。署名付きアップデートはダウンロード時に自動的に検証される	不可。ツールはアップデートを適用しない
署名なしアップデートの適用	Sun Update Manager 1.0 の場合 — 不可 Sun Patch Manager 2.0 の場合 — 可。ただし最初にアップデートを解凍する必要あり	可	可	不可	不可

ツールの使用状況	Sun Update Manager 1.0 および Sun Patch Manager 2.0	Sun Update Connection 1.0	patchadd/patchrm コマンド	Solaris 2.6 および Solaris 7 のパッチ管理ツール	PatchPro Interactive または PatchPro Expert
GUI の使用	Solaris 10 の場合 — Update Manager が動作しているシステムでは可 Solaris 9 の場合 — Patch Manager (smc) が動作しているシステムでは可 Solaris 8 の場合 — 不可	Sun ベースの Web アプリケーション	不可	不可	可。PatchPro Web サイトからのみツールを実行可能
システムを分析し、適切なアップデートを決定して署名付きまたは署名なしアップデートをダウンロードする	可。ただし署名付きアップデートのみ	可	不可	可。ただし署名付きアップデートのみ	可。ただし署名なしアップデートのみ
ローカルおよびリモートシステムのアップデートサポート	ローカルおよびリモート Solaris 8 の場合 — ローカル	リモート	ローカル	ローカル	不可
RBAC サポート	Update Manager の場合 — 不可 smpatch の場合 — 可	適用外	可	不可	不可

Solaris のアップデート管理

アップデートの適用中に、patchadd コマンドによって情報が /var/sadm/patch/update-id/log ファイルに記録されます。

次の条件に当てはまる場合、patchadd コマンドではアップデートを適用できません。

- システムにパッケージが完全にインストールされていない。
- アップデートパッケージのアーキテクチャと、システムのアーキテクチャが異なっている。
- アップデートパッケージのバージョンと、インストールされたパッケージのバージョンが一致しない。

- 同じベースコードで上位のリビジョン番号を持つアップデートがすでに適用されている。
- 該当するアップデートよりも新しいアップデートがすでに適用されている。
- 適用対象のアップデートと、システムにすでに適用されているアップデートの間に互換性がない。
- 適用対象のアップデートが他のアップデートに依存しているが、そのアップデートがまだ適用されていない。

アップデートの適用に最適な方法の選択

システムに 1 つまたは複数のアップデートをダウンロードしたり適用したりするための方法はいくつかあります。次の表で、自分のニーズに最適な方法を決定してください。

注 – この表で説明されている `smpatch` コマンドのバージョンは、Solaris 8 システムから使用可能になったものです。

コマンドまたはツール	説明	詳細情報
Update Manager GUI	<p>アップデートの管理に GUI の利便性が必要な場合は、このツールを使用します。この GUI の機能には次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムを分析して適切なアップデートを決定する • 1 つまたは複数のアップデートでシステムをアップデートする • アップデートを削除する • 適用したアップデートの一覧を表示する • アップデート管理の環境を設定する • 自分のシステムで新しいアップデートが使用可能になった場合に通知する 	45 ページの「Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理」
Sun Update Connection サービス	Sun から提供されるこの Web アプリケーションは、すべての Solaris 10 システム上のアップデートをリモート管理する場合に使用します。	『Sun Update Connection 1.0 管理ガイド』

コマンドまたはツール	説明	詳細情報
<code>smpatch update</code>	<p>このコマンドは、システムを分析して適切なアップデートを決定し、そのアップデートをダウンロードおよび適用する際に使用します。</p> <p>このコマンドでは <code>interactive</code> プロパティセットを含むアップデートは適用されないことに注意してください。</p> <p>Solaris 8 システムでは、ローカルモードの <code>smpatch</code> のみが有効となります。</p>	<code>smpatch(1M)</code> のマニュアルページ
<code>smpatch analyze</code> および <code>smpatch update</code>	<p>まず、<code>smpatch analyze</code> を使用してシステムを分析し、適切なアップデートを決定します。その後、<code>smpatch update</code> を使用して 1 つまたは複数のアップデートをシステムにダウンロードおよび適用します。</p> <p>このコマンドでは <code>interactive</code> プロパティセットを含むアップデートは適用されないことに注意してください。</p> <p>Solaris 8 システムでは、ローカルモードの <code>smpatch</code> のみが有効となります。</p>	<code>smpatch(1M)</code> のマニュアルページ
<code>smpatch analyze</code> 、 <code>smpatch download</code> および <code>smpatch add</code>	<p>まず、<code>smpatch analyze</code> を使用してシステムを分析し、適切なアップデートを決定します。その後、<code>smpatch download</code> を使用してアップデートをダウンロードします。このコマンドでは、適用対象のアップデートの前提条件となるアップデートもすべてダウンロードされます。その後、<code>smpatch add</code> を使用して、1 つまたは複数のアップデートをシステムに適用します。システムはシングルユーザーモードとマルチユーザーモードのいずれでも有効です。</p> <p>Solaris 8 システムでは、ローカルモードの <code>smpatch</code> のみが有効となります。</p>	<code>smpatch(1M)</code> のマニュアルページ
<code>patchadd</code>	<p>Solaris 2.6 リリース以降 — 署名なしアップデートをシステムに適用します。</p> <p>Solaris 9 12/03 リリース以降 — このコマンドを使用して、署名付きまたは署名なしアップデートをシステムに適用します。署名付きアップデートを適用するには、まずパッケージのキーストアを設定する必要があります。</p>	<code>patchadd(1M)</code> のマニュアルページ

アップデート適用方法として `smpatch` コマンドラインインタフェースまたは **Update Manager** グラフィカルユーザーインタフェースの使用を選択した場合は、選択した方法に影響する可能性のある詳細情報を1 ページの「 **Update Manager の概要** 」で参照してください。

Sun Update Connection の機能

このセクションでは、**Sun Update Connection, System Edition** の主な機能について説明します。

- 11 ページの「 **Sun Update Manager のグラフィカルユーザーインタフェース** 」
- 12 ページの「 **Sun Update Connection サービス** 」
- 12 ページの「 **Sun Update Connection プロキシ** 」
- 14 ページの「 **PatchPro 分析エンジン** 」
- 15 ページの「 **ローカルモードのコマンドラインインタフェース** 」
- 16 ページの「 **アップデートリストの操作** 」

Update Manager ツールを使用するには、少なくとも **Solaris 10** ソフトウェアの **End User Solaris Software Group** をインストールする必要があります。

注 - 2005 年 7 月時点では、**Sun** のアップデートのうち **Sun Update Manager** アプリケーションで適用できないアップデートがいくつかあります。そのようなアップデートには、**PatchPro** の規格に準拠していないアップデートや、サードパーティーによる契約の制限を受けるアップデートなどがあります。

Solaris パッチおよび **Sun Patch Manager 2.0** ソフトウェアに関する情報は、docs.sun.com のサイトの **Solaris 10 System Administrator Collection** の『**Solaris** のシステム管理 (基本編)』に記載されています。

Sun Update Manager のグラフィカルユーザーインタフェース

Update Manager には、システムをアップデートする際のグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) が装備されています。GUI を使用すると、システムを分析したり、選択したアップデートを適用したり、アップデートを削除したり、アップデート管理環境を設定したりすることができます。

Sun Update Connection サービス

Sun Update Connection サービスでは、登録済みの各システムのすべてのアップデートアクティビティをリモートで監視および管理することができます。このサービスは、Sun で動作する Web アプリケーションを介して使用できます。

注 – Sun Update Connection サービスで管理するシステムも、引き続き Update Manager を使用してリモート管理できます。このツールに表示されるアップデートデータが、遅延により同期していない場合があります。

Sun Update Connection サービスでは、Sun の Web サイト上で提供される Web アプリケーションが使用できます。このツールを使用してジョブを作成し、サービスにチェックインしながら、このジョブをシステム上で実行することができます。ジョブには、アップデートをインストールするものとアンインストールするものがあります。また、この Web アプリケーションを使用することにより、システムおよびジョブのアップデートステータスを表示することもできます。

Sun Update Connection サービスの機能は次のとおりです。

- **登録済みシステムの自動チェックイン。** 登録済みの各システムが Sun Update Connection Web サイトにチェックインまたは接続して、待機状態になっているアップデートのインストールおよびアンインストールジョブを実行します。チェックイン間隔はシステムごとに指定できます。
- **ジョブの作成。** 1 つまたは複数のシステムに対して、アップデートをダウンロードおよびインストールするジョブを作成します。
- **ジョブの監視。** すべてのアップデート関連ジョブの進捗状況を表示します。
- **ジョブの管理。** 保留中のジョブのキャンセルや、完了したジョブのアーカイブ、および再起動が必要なアップデートのインストールを行うためのシステムの再起動のスケジューリングを行います。

Sun Update Connection サービスの詳細については、『Sun Update Connection 1.0 管理ガイド』を参照してください。

Sun Update Connection プロキシ

Sun Update Connection プロキシは、以前、ローカルパッチサーバーと呼ばれていました。

このプロキシは、Sun Update Connection, System Edition 1.0 および Sun Patch Manager 2.0 を使用するクライアントシステムに対応しています。Sun Update Connection クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 に関連する古いバージョンのローカルパッチサーバーの機能との互換性はありません。

注 – Sun Update Connection プロキシはオプション機能で、**Sun Service Plan** に加入していれば無料で取得できます。**Sun Service Plan** への加入に関する詳細は、**Solaris Operating System Software Support** の Web サイト (<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/>) にアクセスし、適切なサービスのレベルを選択してください。

Solaris 8 オペレーティングシステム以降は、クライアントシステムでアップデートおよびアップデートデータにアクセスして、アップデートの分析や管理を行うことができます。アップデートデータはアップデートソースから提供されます。アップデートソースは、**Sun アップデートサーバー**や**Sun Update Connection** プロキシなどのアップデートサーバー（ローカルパッチサーバーともいう）の場合と、アップデートのローカルコレクションの場合があります。

イントラネット上で**Sun Update Connection** プロキシを使用すると、ローカルシステムにアップデートを供給して、お使いのシステムと**Sun アップデートサーバー**の間のインターネットトラフィックを最小化することができます。このプロキシでは、アップデートソースからダウンロードしたすべてのアップデートをキャッシュします。

このタイプのプロキシをイントラネット上で設定する方法については、64 ページの「**コマンドラインインタフェースを使用した Sun Update Connection プロキシの設定**」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシでは、要求を受けるごとにアップデートソースからアップデートを取得します。アップデートを使用するまでは、そのアップデートをプロキシに保存しておく必要はありません。

Sun Update Connection プロキシとして動作するシステムには、少なくとも**Solaris 10** が動作しており、**Developer Solaris Software Group** がインストールされているシステムを選択する必要があります。また、このシステムには**Sun Update Manager 1.0** ソフトウェアもインストールされている必要があります。

Sun Update Connection プロキシを使用する 利点

Sun Update Connection プロキシを使用することにより、セキュリティの問題のほか、システム分析やアップデートのダウンロードのパフォーマンスなどの問題に対処することができます。

たとえば、クライアントシステムが**Sun Update Connection** プロキシに接続されていてローカルで管理されている場合、クライアントシステムをインターネットに接続する必要はありません。また、これらのクライアントシステムを**Sun Update Manager** で登録する必要もありません。

別の例としては、このタイプのプロキシを使用することにより、アップデートに関連したパフォーマンスの問題が改善されます。**Sun アップデートサーバー**から各システムにアップデートやメタデータをダウンロードする代わりに、**Sun Update**

Connection プロキシへアップデートを 1 度だけダウンロードするという方法があります。アップデートデータをこのサーバーに格納すれば、アップデートデータはインターネットではなく、イントラネット経由でシステムへ転送され、分析されます。

Sun Update Connection プロキシの連鎖は、イントラネット上で設定できます。プロキシの連鎖の最後のリンクは、Sun アップデートサーバーまたはアップデートのローカルコレクションに指定できます。こうしたプロキシの連鎖を使用することにより、システムからの主要な Sun Update Connection プロキシに対するアップデートダウンロードの要求は、連鎖内の別のプロキシに転送され、要求が実行されます。システムの主要な Sun Update Connection プロキシがアップデートを検索できない場合、プロキシは連鎖内の次のプロキシに対して同じ要求を行い、そこにアップデートが格納されているかどうかを確認します。アップデートが見つければ、システムにそのアップデートがダウンロードされます。アップデートが見つからない場合、アップデートが見つかるか、連鎖内の最後のプロキシに到達するまで、要求は連鎖内で次々と実行されます。

たとえば、ある会社に、Sun アップデートサーバーから直接アップデートを取得する Sun Update Connection プロキシがあると仮定します。社内の事業所にはそれぞれ Sun Update Connection プロキシがあり、会社のプロキシからアップデートを取得します。

連鎖内の各 Sun Update Connection プロキシには、別のプロキシで発見されたアップデートがダウンロードの要求ごとに格納されています。これにより、自分のプロキシで最初に見つからなかったアップデートもダウンロードされ、格納されてから、クライアントシステムにダウンロードされます。プロキシの連鎖内には多数のシステムがあるため、システムを 1 つ進むごとに、クライアントシステムへのアップデートのダウンロードにかかる時間が長くなる場合があります。したがって、クライアントシステムで初めてダウンロードを要求すると、アップデートはインターネット経由でプロキシシステムにダウンロードされます。その後アップデートを要求すると、プロキシシステムからイントラネット経由でクライアントシステムへアップデートがダウンロードされます。

PatchPro 分析エンジン

Update Manager には、PatchPro 機能が組み込まれています。PatchPro はシステム上でアップデートの分析を行い、その結果必要なアップデートをダウンロードおよび適用します。これまで、この自動処理機能は Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8、および Solaris 9 で別個の PatchPro 製品として、また、Sun Patch Manager 2.0 製品で使用可能でした。現在、PatchPro 機能は Sun Update Manager 1.0 の一部になっています。

PatchPro は署名付きのアップデートを使用するため、Solaris のアップデートが変更されていないことを確認することによってアップデートの安全性が向上します。

注 – Sun Update Manager 1.0 には移行のために `pprosetup` および `pprosvc` コマンドが入っています。これらのコマンドはなるべく使用せず、代わりに `smpatch` コマンドを使用することをお勧めします。

ローカルモードのコマンドラインインタフェース

注 – Solaris 8 システムでは、ローカルモードで実行できるコマンドは `smpatch` のみです。

Solaris 9 以降は、`smpatch` コマンドはローカルとリモートの2つのモードで使用できます。ローカルモードは、ローカルシステム上でのみ実行できます。システムがシングルユーザーモードとマルチユーザーモードのいずれの場合でも実行できます。リモートモードは、リモートシステム上でタスクを実行する場合に使用できます。ローカルモードとリモートモードはいずれも、適切な権限を持つユーザーまたは役割によって使用できます。

デフォルトでは、`smpatch` がローカルモードで実行されます。ローカルモードでは Solaris WBEM サービスが使用されません。また、認証オプションも、リモートシステムを参照するオプションも使用できません。ローカルモードで `smpatch` コマンドを実行すると、リモートモードよりも高速で処理されます。

リモートオプションや認証オプション (`-L` を除く) を指定すると、リモートモードが使用されます。

ローカルモードでのシングルユーザーモードの操作

ローカルモードで `smpatch add` コマンドを使用すると、システムがシングルユーザーモードでもアップデートを適用することができます。この方法でアップデートを適用できるのは、該当するアップデートが `singleuser` アップデートプロパティと関連している場合か、操作中ではないシステムにアップデートを適用する場合です。

システムがシングルユーザーモードで動作しているときにアップデートを管理するには、`smpatch add`、`smpatch order`、および `smpatch remove` コマンドのみを使用してください。

システムがシングルユーザーモードで動作しているときにアップデートの管理環境を設定するには、`smpatch get`、`smpatch set`、および `smpatch unset` コマンドを使用します。

システムがシングルユーザーモードで動作しているときは、`smpatch analyze`、`smpatch download`、および `smpatch update` コマンドは使用しないでください。これらのコマンドが依存するネットワークサービスは、システムがシングルユーザーモードのときには使用できません。

アップデートを適用する際のポリシーとアップデートが一致しない場合、そのアップデートは自動的にシステムに適用されません。このようなアップデートは、シングルユーザーモードで手動で適用する必要があります。

適用後すぐに再起動、または再構成のための再起動を行う必要のあるアップデートは、すぐには適用されません。このようなアップデートは、予定されたシステムシャットダウンの間に自動的に適用されます。

アップデートリストの操作

`smpatch` コマンドを使用して、アップデートを順序に沿って並べたリストを作成することができます。このリストはテキストファイルで保存し、それを使用してアップデート操作を行うことができます。

アップデートリストを使用すれば、同じハードウェアおよびソフトウェア設定のシステムに、同じアップデートのセットを適用できます。また、関連するすべてのセキュリティアップデートを含むアップデートリストファイルを作成し、そのリストを使用して1つまたは複数のシステムにセキュリティアップデートを適用することもできます。

アップデートを順序に沿って並べたリストを含むファイルを作成するには、次のいずれかの方法で `smpatch` コマンドを使用します。

- **システムの分析を実行する。** `smpatch analyze` コマンドを使用してシステムを分析し、アップデートを順序に沿って並べたリストを生成してファイルに書き込みます。このファイルを編集して、不要なアップデートを削除することもできます。
- **特定のアップデートのリストを供給する。** `smpatch analyze` コマンドを使用し、特定のシステムに指定したアップデートのセットに基づいて、アップデートを順序に沿って並べたリストを生成します。アップデートリストは、そのアップデートが依存するアップデートのリストを補うことによって決定されます。
- **システムに格納されたアップデートのコレクションを指定する。** `smpatch order` コマンドを使用して、システムに格納されたアップデートのコレクションに基づいて、アップデートを順序に沿って並べたリストを作成します。

アップデートリストを変更したときに、そのアップデートがシステムで使用できる場合は、`smpatch order` コマンドを使用して、アップデートの適用に適した順序でリストを出力します。アップデートが使用できない場合は、`smpatch analyze` コマンドを使用する方法でも、アップデートを順序に沿って並べたリストを作成できます。



警告 - `smpatch add` コマンドは、アップデート適用のポリシーやアップデートの依存性にかかわらず、アップデートリスト内のすべてのアップデートを適用しようとしてます。

アップデートリストは、`smpatch add`、`smpatch analyze`、`smpatch download`、`smpatch order`、および `smpatch update` コマンドへの入力として使用できます。

Sun Update Manager の概念

Sun Update Manager ソフトウェアを使用するには、次の概念についてよく知っておく必要があります。

- 17 ページの「 Sun Update Manager ツール 」
- 18 ページの「 Sun Update Manager の登録 」
- 20 ページの「 アップデート管理のプロセス 」
- 23 ページの「 アップデートのソースの指定 」
- 24 ページの「 アップデートを適用する際のポリシーのカスタマイズ 」
- 25 ページの「 Update Manager の設定プロパティの設定 」

Solaris パッチおよび Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアに関する情報は、docs.sun.com のサイトの Solaris 10 System Administrator Collection の『Solaris のシステム管理 (基本編)』に記載されています。

Sun Update Manager ツール

Update Manager は、Solaris 10 システム上でアップデートを管理するツールです。Update Manager では、以前の Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアで使用できた機能をさらに拡張しています。新機能は、サンオンラインアカウントを持っていて、お使いのシステムを Sun に登録している場合のみ使用できます。

注 - `smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用すれば、いつでも Sun から手動でダウンロードしたアップデートを管理することができます。この方法で管理するシステムは、登録の必要はありません。ただし、`smpatch analyze`、`smpatch download` または `smpatch update` コマンドを使用する場合は、システムを登録する必要があります。

Sun Update Manager の登録

Update Manager で登録したシステムでのみ、Update Manager の機能の使用や、Sun Update Connection サービスでのリモート管理が可能となります。

システムの登録手順については、38 ページの「システムを登録する方法」を参照してください。サブスクリプションキーの取得に関する詳細については、43 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」を参照してください。

注 – Sun Update Connection プロキシのクライアントになっているシステムをイントラネット上でローカル管理している場合、そのクライアントシステムを登録する必要はありません。プロキシとして動作するシステムは登録する必要があります。ただし、クライアントシステムが Sun Update Connection サービスによってリモートでも管理されている場合は、そのクライアントシステムも登録する必要があります。

ソフトウェアサポートを含む Sun Service Plan に加入している場合は、次の操作を行うことができます。

- Sun Update Manager アプリケーションを使用して、ローカルでアップデートを管理する
- Sun Update Connection サービスを使用して、リモートでアップデートを管理する
- Sun アップデートサーバーにアクセスして、手動でアップデートを管理する
- `smpatch` コマンドを使用してアップデートを管理する

有効な Solaris Service Plans の情報については、<http://www.sun.com/service/solaris10/> の Web サイトをご覧ください。

登録サービスのレベル

Update Manager を使用するには、本ソフトウェアをインストールしたシステムを登録する必要があります。登録と権限のレベルは、次の 3 つから選択できます。各レベルについては以降のセクションで説明します。

- サブスクリプションなしの登録
- サブスクリプション付きの登録
- Sun Update Connection で管理する、サブスクリプション付きの登録

注 – 未登録のシステムでは、セキュリティアップデートのみにアクセスできます。未登録のシステムでアップデートを管理するには、`smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用します。

サブスクリプションなしの登録

システムの基本情報を Sun へ送信しているが、アップデート管理のサブスクリプションは購入していない状態です。このサービスレベルでは、**Update Manager** を使用してアップデートをローカル管理できます。管理には次のような操作が含まれます。

- インストール済みアップデートの一覧を表示する
- システム上のセキュリティアップデートを管理する
- 適切なアップデートを取得するためにシステムを分析する
- 適切なアップデートをインストールおよびアンインストールする
- アップデートの依存性を解決する
- アップデートのダウンロードおよびインストールのステータスを監視する
- システムに適合した新しいアップデートが使用可能になったときに通知を受信する

注 – アップデート管理環境に **Sun Update Connection** プロキシが含まれていて、システムがそのプロキシのクライアントである場合、**Sun Update Manager** を使用してクライアントシステムを登録する必要はありません。ただし、プロキシとして動作するシステムは登録する必要があります。

サブスクリプション付きの登録

システムの情報を Sun へ送信し、アップデート管理のサブスクリプションを購入した状態です。このサービスレベルでは、以前の（基本）サービスレベルで使用できた機能が拡張されています。**Update Manager** を使用して次の作業を実行できます。

- システムにあるすべての **Solaris** アップデートを管理する
- 自動ダウンロードおよびインストールを行うアップデートを選択する
- すべてのアップデート依存性に関する通知を受け取る
- **Sun Update Connection** サービスによるシステムのリモート管理を設定する

注 – アップデート管理環境に **Sun Update Connection** プロキシが含まれていて、システムがそのプロキシのクライアントである場合、**Sun Update Manager** を使用してクライアントシステムを登録する必要はありません。プロキシとして動作するシステムは登録する必要があります。ただし、**Sun Update Connection** サービスを使用してクライアントシステムをリモート管理するように設定する場合は、システムを登録する必要があります。

Sun Update Connection で管理する、サブスクリプション付きの登録

システム情報を送信して、サブスクリプションを購入し、Sun Update Connection サービスを使用してアップデートをリモートで管理しようとしている状態です。このサービスレベルでは、以前の（中間）サービスレベルで使用できた機能が拡張されています。Sun Update Connection サービスを使用して次の作業を実行できます。

- すべての管理対象システムに関する情報を表示する
- すべてのアップデート管理アクティビティを示すレポートを表示する
- Sun から提供される Web アプリケーションを使用して、システム上でアップデートをリモート管理する
- システムのチェックイン時間を制御してアップデートの管理を自動で行う

アップデート管理のプロセス

Update Manager では、アップデートの管理プロセスを実行できます。管理プロセスのタスクには、次のようなものがあります。

- システムを分析して適切なアップデートの一覧を取得する。
- 適切なアップデートをシステムにダウンロードする。
- 適切なアップデートをシステムに適用する。
- システムのアップデート管理環境を設定する。
- システムのアップデート管理環境を調整する。
- システムからアップデートを削除する。
- Sun Update Connection サービスを使用してシステムをリモートで管理する。

Solaris のアップデートを使用するために推奨される方針と実践の詳細については、<http://docs.sun.com/doc/817-0574/> をご覧ください。

アップデートが正常に適用されると、ダウンロードしたアップデートはダウンロードディレクトリから削除されます。

システムに適用されるアップデートは、指定したポリシー、およびダウンロードしたアップデートに関連するアップデートプロパティによって異なります。

アップデート適用のポリシーに一致しないアップデートがあると、そのアップデートはすぐには適用されません。このようなアップデートは、予定されたシステムシャットダウンの間に適用されます。Update Manager では、これらのアップデートを「再起動が必要」なアップデートとして表示します。

interactive プロパティセットを含むアップデートについては、そのアップデートの README ファイルの指示に従って手動で適用してください。Update Manager では、これらのアップデートを「ダウンロードのみ」のアップデートとして表示します。

システムの分析

システムにアップデートを適用する前に、必要なアップデートを判断する必要があります。Update Manager を使用してシステムのアップデート分析を行い、適切なアップデートの一覧を取得できます。

Update Manager では、分析モジュールおよび有効なアップデートのリストを使用して Solaris システムの分析を行います。アップデートのソースの詳細については、23 ページの「アップデートのソースの指定」をご覧ください。

分析結果に基づいて、適切なアップデートがシステムにダウンロードおよび適用されます。

場合により、あるアップデートが、別のアップデートを適用しないとシステムに適用できないことがあります。このことを、前者のアップデートが後者のアップデートに依存しているといいます。Update Manager でシステムを分析すると、Update Manager はアップデートの依存性をチェックして、自動的にすべてのアップデートを結果一覧に出力します。

注 - 分析によって生成されたアップデートの一覧は、Sun アップデートサーバーから取得した、すべての有効なアップデートに基づいています。ホストシステムやシステムのネットワーク設定に関する明示的な情報が、Sun に転送されることはありません。Sun のアップデートセットに必要な要求のみが転送されます。アップデートセットでホストシステムに適したアップデートをスキャンし、その結果が表示されます。必要に応じて、表示されたアップデートをダウンロードします。

システムへのアップデートのダウンロード

システムにアップデートを適用する前に、必要なアップデートを Sun アップデートサーバーからシステムへダウンロードする必要があります。

システム分析に基づいて Sun アップデートサーバーからアップデートをダウンロードすることも、特定のアップデートをダウンロード対象に指定することもできます。

Update Manager は、ダウンロード操作とインストール操作を結びつけて行います。したがって、アップデートのインストールを要求すると、アップデートはまずシステムにダウンロードされ、その後インストールされます。

「ダウンロードのみ」のマークが付いた一部のアップデートは、Update Manager でインストールできません。「ダウンロードのみ」のアップデートのインストールを要求すると、そのアップデートはシステムにダウンロードされますが、インストールはされません。このアップデートをインストールするには、アップデートの README ファイルのインストール手順に従う必要があります。

システムへのアップデートの適用

Update Manager では、システムにアップデートを適用できます。

`smpatch add` コマンドを使用して特定のアップデートを適用すると、コマンドは指定したアップデートのみを適用しようとします。 `smpatch add` コマンドでは、アップデートの依存性は解決されません。適用しようとしたアップデートが依存するアップデートが存在しない場合、アップデートは適用されません。アップデートの依存性の問題を解決するには、 `smpatch analyze` コマンドまたは `smpatch update` コマンドを使用します。

Sun Update Manager GUI を使用して、アップデートの一覧から選択したアップデートを適用すると、それぞれのアップデートが(必要に応じて)ダウンロードされてから適用されます。

一覧になっているアップデートをインストールしようとする、Update Manager ではまず分析を行い、依存性のあるアップデートをインストールする必要があるかどうかを判断します。

システムからのアップデートの削除

以前にシステムに適用したアップデートを削除(または取り消し)したい場合があります。Update Manager では、アップデートを削除することができます。



警告 – Sun Update Manager 1.0 の機能アップデートはシステムから削除しないでください。削除すると Update Manager が誤動作します。

アップデートを削除すると、そのアップデートによって変更されていたファイルが Solaris アップデートツールによってすべて復元されます。ただし次の条件に一致する場合を除きます。

- アップデートが `patchadd -d` コマンドを使用して適用されている場合。このコマンドは `patchadd` コマンドに、アップデートまたは置換されるファイルのコピーを保存しないように指示します。
- アップデートが、 `-d` オプションなしの `patchadd` コマンドを使用して適用され、それによって生成されたバックアウトファイルが削除されている場合。
- アップデートが、より新しいアップデートによって古くなっている場合。
- アップデートが別のアップデートのために必要である場合。

アップデートの削除処理中に、 `patchrm` コマンドによってバックアウト処理が `/tmp/backoutlog.process-id` ファイルに記録されます。アップデートが正常に削除されると、このログファイルは自動的に削除されます。

Sun Update Manager GUI を使用して、適用したアップデートの一覧から 1 つまたは複数のアップデートを選択して削除することができます。ただし、`smpatch remove` コマンドを使用した場合、一度に削除できるアップデートは 1 つのみです。

注 – 他のアップデートが依存するアップデートを削除しようとしても、削除できません。これに依存するアップデートをすべて削除すれば、そのアップデートを削除できます。

他のアップデートが依存しているアップデートを削除しようとする、そのアップデートと同時に削除する必要のあるアップデートの一覧が表示されます。最初に選択したアップデートを削除するには、これらのアップデートの削除に同意する必要があります。

Sun Update Connection サービスを使用したシステムの管理

Sun Update Connection サービスによる Solaris 10 システムの管理は、登録処理中または処理後に要求できます。Sun Update Connection サービスでは、すべてのシステム上にあるアップデートを管理する Web アプリケーションが使用できます。

詳細については、『Sun Update Connection 1.0 管理ガイド』を参照してください。

Sun Update Connection サービスでシステムを管理しても、Update Manager を使用してローカルのシステムのアップデートを管理することは引き続き可能です。

アップデートのソースの指定

Update Manager を使用する場合は、クライアントシステムおよび Sun Update Connection プロキシに、Solaris のアップデートおよびアップデートデータへのアクセス権が必要となります。クライアントシステムでもプロキシでも、次のソースからアップデートを取得することができます。

- **アップデートサーバー** — Solaris のアップデートおよびアップデートデータへのアクセスを提供するサーバー。アップデートサーバーとして、イントラネット上の Sun Update Connection プロキシ、またはインターネットでアクセス可能な Sun アップデートサーバーを指定できます。
- **アップデートのローカルコレクション** — ローカルシステムで使用可能なディレクトリに保存されているアップデートおよびアップデートデータのコレクション。このディレクトリには、ローカルディレクトリや共有ネットワークディレクトリ、ローカルシステムにマウントされた CD などがあります。

クライアントシステムおよび Sun Update Connection プロキシに対するアップデートのデフォルトのソースは Sun アップデートサーバーです。したがって、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するクライアントシステムや Sun Update Connection プロキシは、直接またはネットワークプロキシ経由のいずれかでインターネットに接続している必要があります。

Sun Update Connection プロキシと別のアップデートソースを組み合わせることによって、このようなアップデート管理の環境を設定することができます。

クライアントがアクセスするアップデートおよびアップデートデータのソースは次のとおりです。

- **Sun アップデートサーバー** — この設定では、クライアントシステムが直接またはネットワークプロキシ経由でインターネットに接続している必要があります。このようなクライアントシステムは、Update Manager で登録する必要があります。
- **イントラネット上の Sun Update Connection プロキシ (Sun アップデートサーバー経由)** — この設定では、Sun Update Connection プロキシのみが、直接またはネットワークプロキシ経由でインターネットに接続している必要があります。プロキシとして動作するシステムは Update Manager で登録する必要がありますが、プロキシのクライアントシステムを登録する必要はありません。
- **ローカルシステム上のアップデートのコレクション** — この設定では、クライアントシステムをインターネットに接続する必要はありません。これらのクライアントシステムも、Update Manager で登録する必要はありません。
- **Sun Update Connection プロキシ (ローカルシステム上のアップデートコレクションを経由)** — この設定では、クライアントシステムおよび Sun Update Connection プロキシをインターネットに接続する必要はありません。また、プロキシとして動作するシステムおよびクライアントシステムも、Update Manager で登録する必要はありません。

クライアントシステムで取得するアップデートのソースを指定する方法については、50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

プロキシで取得するアップデートのソースを指定する方法については、70 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンドライン)」を参照してください。

アップデートを適用する際のポリシーのカスタマイズ

Update Manager でシステムに適用されるアップデートのタイプは次のとおりです。

- すぐに適用され、システムの再起動も必要としない標準のアップデート
- システムの再起動を必要とするアップデート
- 手動で適用する必要のあるアップデート

標準のアップデートは、`standard` アップデートプロパティと関連しています。「再起動が必要」というマークが付いたアップデートは、`rebootafter`、`reconfigafter`、`rebootimmediate`、`reconfigimmediate` および `singleuser` アップデートプロパティと関連しています。「ダウンロードのみ」というマークが付いたアップデートは、`interactive` アップデートプロパティと関連しています。「ダウンロードのみ」のアップデートは、システムにダウンロードされるだけで、アップデートの `README` ファイルの手順に従って手動で適用する必要があります。

ただし、`smpatch update` コマンドを使用してシステムをアップデートすると、アップデート適用のポリシーをカスタマイズすることができます。

このポリシーの詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

Update Manager の設定プロパティの設定

`smpatch set` コマンドでは、次のパラメータを使用してアップデート管理環境を設定します。

注 - `patchpro.patchset` 以外のパラメータは、Sun Update Manager GUI で「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択し、適切な値を指定する方法でも変更できます。

- `patchpro.patchset` — 使用するアップデートセットの名前。デフォルトの名前は `current` です。
「コレクションの表示」メニューからアップデートのセットを選択します。
- `patchpro.download.directory` — ダウンロードしたアップデートが格納されるディレクトリのパス。ここからアップデートが適用されます。デフォルトの場所は `/var/sadm/spool` です。
- `patchpro.backout.directory` — アップデートのバックアウトデータが保存されるディレクトリのパス。アップデートを削除すると、このディレクトリからもデータが取得されます。デフォルトでは、バックアウトデータはパッケージのディレクトリに保存されます。
- `patchpro.patch.source` — アップデートのコレクションを指す URL。デフォルトの URL は、Sun アップデートサーバー (<https://getupdates.sun.com/solaris/>) です。
- `patchpro.proxy.host` — ネットワークプロキシのホスト名。デフォルトでは、インターネットへの直接接続が前提となっているため、ネットワークプロキシは指定されていません。
- `patchpro.proxy.port` — ネットワークプロキシが使用するポート番号。デフォルトでは、インターネットへの直接接続が前提となっているため、ネットワークプロキシは指定されていません。デフォルトのポートは 8080 です。

- `patchpro.proxy.user` — 認証の際にネットワークプロキシが使用するユーザー名。
- `patchpro.proxy.passwd` — 認証の際にネットワークプロキシが使用するパスワード。
- `patchpro.install.types` — アップデートを適用する際のポリシー。値は、コロンで分割された 0 または 1 つ以上のアップデートプロパティです。このプロパティはアップデート操作 (`smpatch update`) によって適用することができます。
 - デフォルトでは、`smpatch update` コマンドは `standard`、`rebootafter` および `reconfigafter` プロパティを持つアップデートを適用します。24 ページの「アップデートを適用する際のポリシーのカスタマイズ」を参照してください。
 - Sun Update Manager GUI では常に、`standard` プロパティを持つアップデートを適用します。このポリシーは変更できません。

Sun Update Connection ソフトウェアのインストール

この章では、Sun Update Connection ソフトウェアを Solaris 10 システムにインストールする方法について説明します。インストール可能なソフトウェアとして、Sun Update Manager クライアントソフトウェアと、Sun Update Connection プロキシソフトウェア (オプション) があります。Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法についても説明します。

Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする作業は、導入プロセスの一部に当たります。導入プロセス全体の概要については、2 ページの「導入プロセスの概要」を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 27 ページの「Sun Update Connection ソフトウェアのインストール (タスクマップ)」
- 34 ページの「Sun Update Manager クライアント ソフトウェアのアンインストール (タスクマップ)」

Sun Update Connection ソフトウェア のインストール (タスクマップ)

Sun Update Connection ソフトウェアは、Solaris 10 オペレーティングシステムを実行しているシステムでサポートされています。

Update Manager ツールを使用するには、少なくとも Solaris 10 ソフトウェアの End User Software Group がインストールされている必要があります。また、/var 用のディスク容量として、160M バイトの空き容量が必要です。

システムにオリジナルの Solaris 10 ソフトウェアがインストールされていない場合は、Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする必要があります。Solaris 10 ソフトウェアの以後のリリースには、Sun Update Manager クライアントソフトウェアが含まれています。

次の表は、お使いのシステムで Sun Update Connection ソフトウェアをインストールする方法を示したものです。

タスク	説明	参照先
(省略可能) Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする	<p>Update Manager クライアントソフトウェアは、次のいずれかの方法によってインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>smpatch update</code> コマンドを使用して、Update Manager の機能アップデートをインストールする。 • Sun Update Connection, System Edition を Sun Download Center からダウンロードし、インストールスクリプトを実行して Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの「Sun Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」 • 30 ページの「Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする	<p>Sun Update Connection プロキシソフトウェアは、次のいずれかの方法によってインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>smpatch update</code> コマンドを使用して、プロキシの機能アップデートをインストールする。 • Sun Download Center からプロキシソフトウェアをダウンロードして、インストールスクリプトを実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 31 ページの「Sun Update Connection プロキシの機能アップデートをインストールする方法」 • 32 ページの「Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする方法」
(省略可能) Sun Update Connection, System Edition Preview Release を 1.0 リリースにアップグレードする	<p>Preview Release 版の Update Manager を、Sun Update Connection, System Edition 1.0 にアップグレードします。</p>	<p>33 ページの「Sun Update Connection, System Edition Preview Release を 1.0 リリースにアップグレードする方法」</p>

▼ Sun Update Manager の機能アップデートをインストールする方法

お使いのシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムの End User Solaris Software Group が稼動していることを確認します。



警告 – ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、Update Manager の機能アップデートをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

1. お使いのシステムに該当する Update Manager の機能アップデートを特定します。
機能アップデートは、お使いの Solaris 10 システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。
 - SPARC の場合: アップデート 119107 の最新リビジョン
 - x86 の場合: アップデート 119108 の最新リビジョン
2. スーパーユーザーとしてログインします。
3. `smpatch update` コマンドを使用して、お使いのシステムに該当する機能アップデートを自動的にダウンロードして適用します。
たとえば、次のコマンドを使用した場合、Update Manager の機能アップデートは SPARC ベースのシステムに適用されます。

```
# smpatch update -i 119107-01
```

`smpatch update` コマンドで `-i` オプションを付けてアップデートを指定すると、そのアップデートの最新リビジョンがインストールされます。

処理が完了したら GUI にアクセスして、アップデート管理環境の設定とシステム登録を行なう必要があります。47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

▼ Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法

お使いのシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムの End User Solaris Software Group が稼動していることを確認します。



警告 – ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

1. Sun Download Center (<http://www.sun.com/download>) にアクセスします。
 - a. 「Downloads A-Z」タブをクリックします。
 - b. 「Sun Update Connection, System Edition 1.0」をクリックします。
 - c. 「Download」をクリックすると、ダウンロードの処理が始まります。
ダウンロード処理で表示される手順に従って操作してください。
 - d. システムのローカルディレクトリに、ソフトウェアをダウンロードします。

注 – patchadd のバグ 6188748 があるため、ディレクトリは NFS でマウントしないでください。

ソフトウェアは、お使いの Solaris 10 システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。

- SPARC の場合: updateConnection-sparc.zip
- x86 の場合: updateConnection-i386.zip

2. スーパーユーザーとしてログインします。
3. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
たとえば、/tmp にファイルをダウンロードした場合は、/tmp ディレクトリに移動します。
4. ダウンロードしたファイルを解凍します。
 - SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# unzip updateConnection-sparc.zip
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# unzip updateConnection-i386.zip
```

5. Sun Update Connection, System Edition 1.0 の機能アップデートをインストールします。このアップデートに、Sun Update Manager クライアントソフトウェアが含まれています。

```
# ./updateConnection/installUpdateConnection
```

処理が完了したら GUI にアクセスして、アップデート管理環境の設定とシステム登録を行なう必要があります。47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシの機能アップデートをインストールする方法

お使いのシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムの Developer Solaris Software Group が稼動していることを確認します。



警告 – ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、プロキシソフトウェアをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

1. お使いのシステムに該当する Sun Update Connection プロキシの機能アップデートを特定します。

機能アップデートは、お使いの Solaris 10 システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。

- SPARC の場合: アップデート 119788 の最新リビジョン
- x86 の場合: アップデート 119789 の最新リビジョン

2. スーパーユーザーとしてログインします。
3. `smpatch` コマンドを使用して、お使いのシステムに該当する機能アップデートを適用します。

`smpatch update` コマンドを使用すると、機能アップデートは自動的にシステムにダウンロードされて適用されます。

たとえば、次のコマンドを使用した場合、プロキシの機能アップデートは x86 ベースのシステムに適用されます。

```
# smpatch update -i 119189-01
```

`smpatch update` コマンドで `-i` オプションを付けてアップデートを指定すると、そのアップデートの最新リビジョンがインストールされます。

処理が完了したら、プロキシを設定する必要があります。62 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ)」を参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする方法



警告 – ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、プロキシソフトウェアをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

お使いのシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムの Developer Solaris Software Group が稼働していることを確認します。また、Sun Update Manager ソフトウェアがシステムにインストール済みで、登録作業も完了している必要があります。

注 – Sun Update Connection プロキシはオプション機能です。Sun とサポートサービス契約を結んでいる場合に限り、無料で取得できます。Sun のサポートサービスの詳細については、Solaris Operating System Software Support Web サイト <http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスして、該当するサービスを選択してください。

1. Sun Download Center (<http://www.sun.com/download>) にアクセスします。
 - a. 「Downloads A-Z」タブをクリックします。
 - b. 「Sun Update Connection, System Edition 1.0」をクリックします。
 - c. 「Download」をクリックすると、ダウンロードの処理が始まります。
ダウンロード処理で表示される手順に従って操作してください。
 - d. システムのローカルディレクトリに、ソフトウェアをダウンロードします。

注 – patchadd のバグ 6188748 があるため、ディレクトリは NFS でマウントしないでください。

ソフトウェアは、お使いの Solaris 10 システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。

- SPARC の場合: `updateConnection-proxy-sparc.zip`
- x86 の場合: `updateConnection-proxy-i386.zip`

2. ターミナルウィンドウを開きます。
3. スーパーユーザーとしてログインします。
4. zip ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。

たとえば、`/tmp` にファイルをダウンロードした場合は、`/tmp` ディレクトリに移動します。

5. zip ファイルを解凍します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# unzip updateConnection-proxy-sparc.zip
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# unzip updateConnection-proxy-i386.zip
```

6. Sun Update Connection プロキシのパッケージをインストールします。

```
# updateConnectionProxy/installUpdateConnectionProxy
```

処理が完了したら、プロキシを設定する必要があります。62 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ)」を参照してください。

▼ Sun Update Connection, System Edition Preview Release を 1.0 リリースにアップグレードする方法

Sun Update Connection, System Edition ソフトウェアのプレビューリリース版をインストールしている場合は、プレビューリリースのプロモーション期間終了時にソフトウェアをアップグレードする必要があります。アップグレードを実行するには、Sun Update Connection, System Edition 1.0 の新しい機能アップデートをインストールします。プレビューリリース版を使用している場合、この機能アップデートは、System Edition のユーザーインターフェイスに有効なアップデートとして表示されません。29 ページの「Sun Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシも設定している場合は、プロキシシステムでソフトウェアをアップグレードする必要があります。この場合、Sun Update Connection の機能アップデートおよびプロキシソフトウェアの機能アップデートの両方をインストールする必要があります。プロキシの機能アップデートは、Sun とサポートサービス契約を結んでいる場合に限り、システムで利用できるアップデートのリストに表示されます。31 ページの「Sun Update Connection プロキシの機能アップデートをインストールする方法」を参照してください。

このソフトウェアの機能アップデートの ID は、次のとおりです。

- 119107-01: Sun Update Connection, System Edition 1.0 (SPARC 用)
- 119108-01: Sun Update Connection, System Edition 1.0 (x86 用)
- 119788-01: Sun Update Connection プロキシ (SPARC 用)
- 119789-01: Sun Update Connection プロキシ (x86 用)

Sun Update Manager クライアントソフトウェアのアンインストール (タスクマップ)

次の表は、Sun Update Manager クライアントソフトウェアをシステムからアンインストールする方法を示したものです。

タスク	説明	参照先
(省略可能) Sun Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする	patchrm コマンドを使用して、Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールします。	34 ページの「Sun Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法」
(省略可能) Sun Update Manager クライアントエージェントを停止して無効化する	お使いのシステムのクライアントエージェントを停止し、次に、システムから Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールします。	36 ページの「Sun Update Manager クライアントエージェントソフトウェアを停止して無効化する方法」

▼ Sun Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. (省略可能) Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールしている場合は、プロキシソフトウェアの prebackout ロックファイルを削除し、patchrm を使用してアップデートを削除します。
 - SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119788-01/prebackout
# patchrm 119788-01
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119789-01/prebackout
# patchrm 119789-01
```

3. Sun Update Connection ソフトウェアの prebackout ロックファイルを削除します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119107-01/prebackout
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119108-01/prebackout
```

4. (省略可能) patchrm -R コマンドを使用して、ディスククライアントにある Update Manager の機能アップデートをアンインストールするには、まずディスククライアントにログインし、Sun Update Manager クライアントエージェントを停止して無効化する必要があります。

```
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm stop  
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm disable
```

5. patchrm コマンドを使用して、Sun Update Manager の機能アップデートを削除します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# patchrm 119107-01  
# patchrm 119574-02
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# patchrm 119108-01  
# patchrm 119575-02
```

▼ Sun Update Manager クライアントエージェント ソフトウェアを停止して無効化する方法

このエージェントは、Sun Update Manager ソフトウェアをインストールするときと同時にインストールされます。Sun Update Manager の登録ウィザードでシステムを登録すると、エージェントが有効になります。

ほとんどの場合、pkgrm コマンドを使用すれば、安全にエージェントを無効化することができます。その後、SUNWccinv パッケージを削除します。ただし、ディスクレスクライアントまたはシステムのクラスタにこのパッケージをインストールしている場合は、手動でエージェントを無効化して、それから SUNWccinv パッケージを削除する必要があります。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. インベントリエージェントを停止し、無効化します。

```
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm stop  
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm disable
```

Sun Update Manager による システムの登録

この章では、Sun Update Manager を使用してシステムを登録したり、登録ウィザードから別のタスクを実行したりする方法について説明します。

Sun Update Manager によるシステムの 登録 (タスクマップ)

Sun Update Manager にシステムを登録すると、Update Manager を使用して Solaris 10 システム用のセキュリティアップデートを管理することができます。登録は無料で、システムの基本的な情報を Sun に送信するだけで完了します。登録処理は、初めて Update Manager GUI にアクセスすると開始します。

登録の各レベルについては、18 ページの「Sun Update Manager の登録」を参照してください。

次の表では、Sun Update Manager 登録ウィザードを使用して実行できるタスクについて説明します。

タスク	説明	参照先
(省略可能) Sun Update Manager によるシステムの登録	システムが Sun アップデートサーバーからアップデートやアップデートデータを取得したり、Sun Update Connection サービスを使用してシステムをリモート管理する場合は、Update Manager でシステムを登録する必要があります。	38 ページの「システムを登録する方法」
(省略可能) Sun サブスクリプションキーの取得	セキュリティ以外のアップデートを使用する場合や、Sun Update Connection サービスを使用してシステムをリモート管理する場合は、Sun サブスクリプションキーでシステムを登録する必要があります。 サブスクリプションキーは、ソフトウェアサポートのユーザーであれば利用できます。	43 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」
(省略可能) 登録後に、使用するネットワークプロキシを指定する	ネットワークプロキシ経由でシステムをインターネットに接続する場合、Sun アップデートサーバーへのアクセスに使用するネットワークプロキシを指定する必要があります。 デフォルトでは、ネットワークプロキシは指定されません。	38 ページの「システムを登録する方法」の手順 5
(省略可能) 登録後に、システムが取得するアップデートのローカルソースを指定する	お使いのシステムで、Sun Update Connection プロキシやローカルシステム上のアップデートコレクションなどのローカルソースからアップデートを取得したい場合があります。 システムがインターネットに接続していない場合は、ローカルのアップデートソースを指定する必要があります。 デフォルトでは、システムは Sun からアップデートを取得します。	38 ページの「システムを登録する方法」の手順 4

▼ システムを登録する方法

注 - システムを登録するには、システムをインターネットに接続する必要があります。Java Developer Connection、OSC、MySun、SunSolve、および SunStore などのプログラムでアカウントを登録した場合、すでにサンオンラインアカウントを所有している可能性があります。

登録の各レベルについては、18 ページの「Sun Update Manager の登録」を参照してください。

1. Sun Update Manager アプリケーションを起動します。

- GNOME ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - GNOME パネルの通知領域で、Update Manager の通知アイコンをクリックします。

このアイコンは、疑問符の付いた青い円形です。このアイコンは、システムが登録されていないことを示しています。

この方法では、ソフトウェアをインストールしてもすぐには起動しません。GNOME デスクトップからログアウトして、ログインし直す必要があります。
 - Sun Java Desktop System の「起動」メニューから「アプリケーション」を選択します。

「アプリケーション」から「ユーティリティ」を選択します。そして、「ユーティリティ」メニューから「Update Manager」を選択します。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesmanager` コマンドを実行します。
- CDE ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - 「アプリケーションマネージャ」ウィンドウで、Sun Update Manager アイコンをダブルクリックします。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesmanager` コマンドを実行します。

「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。

2. Update Manager GUI にログインします。

この操作中に Update Manager アプリケーションを終了するには、「キャンセル」をクリックします。

- a. 権限を持つユーザーのユーザー名を指定して「OK」をクリックします。

デフォルトでは、ユーザー名は `root` です。

「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 権限を持つユーザーのパスワードを指定して「OK」をクリックします。

Sun Update Manager 登録ウィザードが表示されます。
- ## 3. 「ようこそ」画面で、Update Manager を使用してシステムでアップデートを管理する方法を指定します。

Update Manager を使用すると、アップデートはシステムで自動的に管理されますが、ユーザーが手動でアップデートを管理することもできます。

- Update Manager GUI または `smpatch` CLI を使用してシステム上でアップデートを管理するには、「登録してアップデートを管理」をクリックします。

「サンオンラインアカウント」画面が表示されます。

- Sun アップデートサーバーからアップデートをダウンロードし、`smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用してアップデートを管理するには、「手動でアップデートを適用」をクリックします。

「完了」をクリックして、登録ウィザードを終了します。

これで、アップデートをシステム上で手動で管理できます。`smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用してアップデートを管理する方法については、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

4. (省略可能) システムがインターネットに接続されていない場合、アップデートのローカルソースを指定します。

Update Manager を使用してアップデートのローカルソースを指定する方法については、50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

- a. 「ローカルソースからアップデートを取得するようにシステムを設定」をクリックします。

「アップデートにローカルソースを使用」画面が表示されます。

- b. 「ローカルソース (Sun Update Connection プロキシ) からアップデートを取得します」をクリックします。

- c. パッチソース URL のフィールドに、ローカルのアップデートソースの URL を入力します。

Sun Update Connection プロキシの URL は、次のような形式で指定します。

`http://サーバー名:3816/solaris/`

- d. このアップデートソースの値を設定して「サンオンラインアカウント」画面に戻するには、「完了」をクリックします。

設定したアップデートソース値の登録情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。次に「登録を中止」をクリックすると、「サンオンラインアカウント」画面に戻ります。

5. (省略可能) インターネットに接続する際にシステムが使用するネットワークプロキシを指定します。

Update Manager アプリケーションを使用してこのネットワークプロキシ情報を指定する場合は、49 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

システムが直接インターネットに接続されている場合は、ネットワークプロキシ情報を指定する必要はありません。

- a. 「ネットワークプロキシの設定」をクリックします。

「ネットワークプロキシの設定」画面が表示されます。

- b. 「ネットワークプロキシを有効にしますか？」をクリックします。

- c. 「プロキシのホスト名」フィールドにプロキシのホスト名を入力します。

- d. 「プロキシのポート」フィールドにプロキシのポート番号を入力します。
 - e. (省略可能) プロキシの認証にユーザー名とパスワードが必要な場合は、「プロキシ認証を使用」をクリックして、次の手順に従います。
 - i. 「プロキシのユーザー名」フィールドにプロキシユーザー名を入力します。
 - ii. 「プロキシのパスワード」フィールドにプロキシユーザーのパスワードを入力します。
 - f. これらのネットワークプロキシの値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

設定したこれらのネットワークプロキシの値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。
6. サンオンラインアカウントを指定します。
- すでにサンオンラインアカウントを取得している場合は、サンオンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力してログインし、「次へ」をクリックして、手順 8 へ進みます。

「利用規約とソフトウェアライセンス」画面が表示されます。
 - ユーザー名またはパスワードを忘れた場合は、「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」をクリックします。

サンオンラインアカウント情報を取得したら、登録処理を再度開始します。
 - サンオンラインアカウントがない場合は、アカウントの登録を行います。
7. (省略可能) 「サンオンラインアカウントの作成」をクリックします。
- 「サンオンラインアカウントの作成」画面が表示されます。このページには Sun プライバシーポリシーが表示されており、また、サンオンラインアカウントの取得に必要な情報を入力するテキストフィールドがあります。
- a. Sun プライバシーポリシーの内容を確認します。
 - b. 登録フォームにアカウント情報を入力して、「次へ」をクリックします。

無効な情報が入力されている場合、訂正を指示するダイアログボックスが表示されます。

「サンオンラインアカウントの作成」ページの 2 ページ目が表示されます。
 - c. 2 ページ目の登録フォームを入力して「次へ」をクリックします。

ここでは、会社名、国名または地域名、および Sun との通信に使用する言語を入力する必要があります。このフォームの他の値は省略可能です。

「利用規約とソフトウェアライセンス」画面が表示されます。
8. (省略可能) すべてのアップデートにアクセスするか、セキュリティアップデートのみにアクセスするかを決定します。
- すべてのアップデートにアクセスする場合は、「キー」フィールドにサブスクリプションキーを指定します。

サポートの契約番号が、サブスクリプションキーになっている場合があります。サブスクリプションキーを取得していない場合は、次のいずれかのソフトウェアサポートプランに登録してください。

- Solaris 10 Service Plan の詳細については、
<http://www.sun.com/service/solaris10/> にアクセスしてください。
- 一般的な Solaris サポートプランの詳細については、
<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスしてください。
- セキュリティアップデートのみにアクセスする場合は、「Sun サブスクリプションキーを入力せずに続行」または「後で入力します」をクリックします。
サブスクリプションキーを指定すると、いつでもすべての Solaris アップデートにアクセスできます。51 ページの「サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

9. 利用規約とソフトウェアライセンスの内容を確認します。

- 同意する場合は、「契約に同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
 - サブスクリプションキーを指定した場合は、「リモートソフトウェアのアップデートサービス」画面が表示されます。この画面では、Sun Update Connection と Sun Update Manager のデモを表示できます。
 - サブスクリプションキーを指定しなかった場合は、「システムの登録」画面が表示されます。手順 11 に進みます。
- 同意しない場合は、「キャンセル」をクリックして登録ウィザードを終了します。
利用規約とソフトウェアライセンスに同意しない場合、Sun Update Manager ソフトウェアを使用できません。

10. システムでアップデートをリモートで管理するのか、ローカルで管理するのかを決定します。

- アップデートをリモートで管理するには、「Sun Update Connection を使ったりリモートアップデート管理を有効にします」をクリックします。
リモートでのアップデート管理を選択した場合でも、Update Manager を使用すれば、システムでアップデートをローカル管理できます。
「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。
Sun Update Connection サービスを使用してシステムでアップデートをリモート管理する方法については、『Sun Update Connection 1.0 管理ガイド』を参照してください。
- ローカルでアップデートを管理する場合は、「ローカルアップデート管理を有効にします」をクリックします。
「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。

11. 「完了」をクリックするとシステムの登録が完了し、システムの情報が Sun へ送信されます。
入力した登録情報を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。
「登録の確認」画面が表示されます。この画面から Sun Update Connection Web アプリケーションにアクセスできます。
12. 「閉じる」をクリックして、登録ウィザードを閉じます。
「チェック中」ダイアログボックスに、システムのアップデート分析の進行状況が表示されます。
Sun Update Manager アプリケーションの「有効なアップデート」画面に、システムにインストールできるアップデートのリストが表示されます。

▼ Sun サブスクリプションキーを取得する方法

すべての Solaris アップデートにアクセスするには、Sun サブスクリプションキーを取得する必要があります。サブスクリプションキーがない場合は、セキュリティアップデートしか表示できません。また、Sun Update Connection サービスを使用する際にもサブスクリプションキーが必要です。

サブスクリプションは、Software Support Service プラン、Solaris 10 Service Plan、または SunSpectrum Support サービス契約で提供される機能の 1 つです。

- Sun サブスクリプションキーを取得していない場合は、次のいずれかのソフトウェアサポートプランに登録してください。
 - Solaris 10 Service Plan の詳細については、
<http://www.sun.com/service/solaris10/> にアクセスしてください。
 - 一般的な Solaris サポートプランの詳細については、
<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスしてください。

Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理

この章では、Sun Update Manager GUI を使用してアップデートを管理する方法を説明します。

注 – このタスクは、`smpatch` コマンドを使用して実行することもできます。詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 46 ページの「Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (タスク マップ)」
- 46 ページの「Sun Update Manager GUI へのアクセス」
- 48 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (タスクマップ)」
- 53 ページの「GUI を使用したアップデートの管理 (タスクマップ)」
- 57 ページの「グラフィカルユーザーインターフェイスを使用してアップデート管理環境を調整する (タスクマップ)」

Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (タスクマップ)

次の表では、Sun Update Manager GUI を使用して実行できるタスクを説明します。

タスク	説明	参照先
GUI へのアクセス	GUI を利用してアップデートを管理する場合は、Sun Update Manager 1.0 の GUI を使用します。	46 ページの「Sun Update Manager GUI へのアクセス」
システムのアップデート管理環境の設定	デフォルトでは、システムはインターネットに直接に接続すると仮定されており、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するように設定されます。 システムでデフォルトの設定を使用しない場合は、環境に応じて設定を変更してください。	48 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (タスクマップ)」
システムでのアップデートの管理	GUI を使用すると、システムの分析、1 つ以上のアップデートの適用、アップデートの依存パッチの確認、およびアップデートの削除を実行できます。	53 ページの「GUI を使用したアップデートの管理 (タスクマップ)」
(省略可能) システムのアップデート管理環境の調整	アップデートディレクトリの場所など、オプション設定を変更します。	57 ページの「グラフィカルユーザーインターフェースを使用してアップデート管理環境を調整する (タスクマップ)」

Sun Update Manager GUI へのアクセス



警告 - Update Manager アプリケーションでは、GUI とコマンドラインによるアップデート操作を同時に実行することはできません。Update Manager の進捗ダイアログでは、操作のキャンセルのみ実行できます。また、`smpatch update` の操作は、一度開始したら中断しないでください。かならず、この操作が完了するまで待つてから、次の操作を開始してください。

▼ Sun Update Manager アプリケーションの アクセス方法 (GUI)

Sun Update Manager GUI は、GNOME デスクトップ、Sun Java Desktop System、CDE Application Manager またはコマンドラインから起動できます。

このアプリケーションを初めて起動すると、Sun Update Manager 登録ウィザードが表示されます。アップデートの管理に Update Manager を使用するには、このウィザードを使用して Solaris 10 システムを登録します。

1. Sun Update Manager アプリケーションを起動します。

- GNOME ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - GNOME パネルの通知領域で、Update Manager の通知アイコンをクリックします。

このアイコンは、疑問符の付いた青い円形です。このアイコンは、システムが登録されていないことを示しています。

この方法では、ソフトウェアをインストールしてもすぐには起動しません。GNOME デスクトップからログアウトして、ログインしなおす必要があります。
 - Sun Java Desktop System の「起動」メニューから「アプリケーション」を選択します。

「アプリケーション」から「ユーティリティ」を選択します。そして、「ユーティリティ」メニューから「Update Manager」を選択します。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesmanager` コマンドを実行します。
- CDE ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - 「アプリケーションマネージャ」ウィンドウで、Sun Update Manager アイコンをダブルクリックします。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesmanager` コマンドを実行します。

「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。

2. 権限を持つユーザーのユーザー名を指定して「OK」をクリックします。

デフォルトでは、ユーザー名は `root` です。

Update Manager アプリケーションを終了するには、「キャンセル」をクリックします。

「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。

3. 権限を持つユーザーのパスワードを指定して「OK」をクリックします。

Update Manager アプリケーションを終了するには「キャンセル」をクリックします。

- 初めて Update Manager GUI にアクセスすると、登録ウィザードが表示されます。ここで登録プロセスを完了できます。
38 ページの「システムを登録する方法」を参照してください。
- システムの登録プロセスがすでに完了している場合は、Update Manager GUI を使用してアップデート管理環境の設定、管理または調整を行うことができます。
46 ページの「Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (タスク マップ)」を参照してください。

GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (タスクマップ)

デフォルトでは、Sun アップデートサーバーから直接アップデートを取得するようにアップデート管理環境が設定されます。したがって、システムで次のいずれかを1つ以上実行する場合、環境をカスタマイズする必要があります。

- ネットワークプロキシによってインターネットに接続する
- ネットワークプロキシの認証で入力するユーザー名とパスワードを要求する
- Sun アップデートサーバー以外のアップデートソースからアップデートを取得する

次の表では、システムのアップデート管理環境を設定するときに行えるタスクを説明します。

smpatch コマンドを使用してアップデート管理環境を設定する場合は、smpatch(1M) のマニュアルページを参照してください。

タスク	説明	参照先
(省略可能) 使用するネットワークプロキシの指定	ネットワークプロキシ経由でシステムをインターネットに接続する場合、Sun アップデートサーバーへのアクセスに使用するネットワークプロキシを指定する必要があります。 デフォルトでは、ネットワークプロキシは指定されません。	49 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) ネットワークプロキシの認証に必要なユーザーとパスワードの指定	ネットワークプロキシに認証が必要な場合、認証が必要なネットワークプロキシユーザーを指定する必要があります。 デフォルトでは、ネットワークプロキシユーザーは指定されません。	49 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) システムのアップデートソースの指定	システムでは、次のソースのいずれかからアップデートを取得できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Sun アップデートサーバー (デフォルト) • イン트라ネット上のアップデートサーバー • ローカルシステム上のアップデートのコレクション 	50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) Sun サブスクリプションキーの指定	システムの登録情報にサブスクリプションキーを追加すると、システムはすべての Solaris アップデートにアクセスできるようになります。サブスクリプションがない場合は、セキュリティアップデートのみにアクセスできます。	51 ページの「サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) Sun Update Connection サービスでシステムを管理できるようにする	システム上でアップデートをリモート管理する場合は、Sun Update Connection Web アプリケーションを使用します。	52 ページの「Sun Update Connection サービス (GUI) を使用してシステムを管理する方法」

▼ ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)

この手順では、Update Manager アプリケーションからネットワークプロキシをアップデートする方法を説明します。インターネットへ接続するために、システムでネットワークプロキシが必要な場合、この手順を実行します。すでにシステムがインターネットに直接に接続されている場合、ネットワークプロキシを指定する必要はありません。

登録ウィザードからネットワークプロキシ情報を指定するには、38 ページの「システムを登録する方法」の手順 5 を参照してください。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
「プリファレンス」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「ネットワークプロキシ」セクションで、「インターネット接続のためのプロキシの手動設定」を選択します。
4. 「プロキシのホスト名」フィールドにネットワークプロキシのホスト名を入力します。
5. 「プロキシのポート番号」フィールドにネットワークプロキシのポート番号を入力します。
6. (省略可能) プロキシの認証にユーザー名とパスワードが必要な場合は、「プロキシ認証を使用」をクリックして、次の手順に従います。
 - a. 「プロキシのユーザー名」フィールドに、ネットワークプロキシのユーザー名を入力します。
 - b. 「プロキシのパスワード」フィールドにネットワークプロキシのパスワードを入力します。
7. これらの値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ アップデートソースを指定する方法 (GUI)

この手順では、Update Manager アプリケーションからアップデートの代替ソースを指定する方法を説明します。デフォルトでは、システムは Sun からアップデートを取得します。

登録ウィザードでアップデートのローカルソース指定するには、38 ページの「システムを登録する方法」の手順 4 を参照してください。

注 - システムのアップデートソースを Sun Update Connection プロキシから Sun アップデートサーバーに変更するには、Update Manager を使用してシステムを登録する必要があります。システムが登録されていない状態でこの変更を行うと、登録ウィザードが表示されます。ここでシステムの登録プロセスを完了できます。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
「プリファレンス」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。
3. 「アップデートソース」セクションで、アップデートのソースを指定します。
 - Sun からアップデートを取得するには、「Sun から」をクリックします。
デフォルトでは、Sun からアップデートを取得します。
 - 指定したアップデートソースからアップデートを取得するには、「指定するローカルソースから (Sun Update Connection プロキシまたは CD)」をクリックします。
テキストフィールドには、アップデートソースの URL を入力する必要があります。
 - イン트라ネット上の Sun Update Connection プロキシの場合は、次の形式の URL を入力します。
`http://サーバー名:3816/solaris/`
 - ディレクトリの場合は、次の形式の URL を入力します。
`file:/ディレクトリ名`
4. この値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)

この操作は、システムの登録を済ませてから実行してください。

セキュリティアップデートだけでなく、すべての Solaris アップデートにアクセスするには、Update Manager の登録情報に Sun サブスクリプションキーを追加します。Sun サブスクリプションキーがない場合は、43 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」を参照してください。

また登録プロセスでも、Sun サブスクリプションキーを指定できます。38 ページの「システムを登録する方法」を参照してください。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「サブスクリプションの管理」を選択します。
「サブスクリプションの追加」ダイアログボックスが表示されます。
3. サンオンラインアカウントの情報を入力します。

- a. 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力します。
- b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
4. 「キー」フィールドにサブスクリプションキーを入力します。
5. 変更内容を保存してダイアログボックスを閉じるには、「完了」をクリックします。
変更内容を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ Sun Update Connection サービス (GUI) を使用してシステムを管理する方法

ここでは、Sun Update Connection Web サイトからシステムを管理できるようにする方法を説明します。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「Sun Update Connection で管理」をクリックします。
「ポータル管理の有効化」画面が表示されます。
3. (省略可能) 「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。
「システムデータ」ダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
4. サンオンラインアカウントに、ユーザー名とパスワードを指定します。
 - a. 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力します。
 - b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
サンオンラインアカウントのユーザー名やパスワードを忘れた場合は、「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」をクリックします。
5. 「キー」フィールドに Sun サブスクリプションキーを指定します。
Sun サブスクリプションキーがなく、Sun Update Connection を使用する場合は、43 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」を参照してください。
6. (省略可能) Sun サブスクリプションキーとして使用できるサブスクリプションキーを確認するには、「該当するキーとは」をクリックします。
7. 「完了」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

GUI を使用したアップデートの管理 (タスクマップ)

Update Manager GUI を使用して、次のタスクを実行できます。

- システムを分析して適切なアップデートのリストを作成する
- アップデートでシステムを自動的にアップデートする
- システムからアップデートを削除する

上記以外のタスクやそれ以外のタスクを実行するには、コマンドラインインタフェースを使用してください。詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

次の表では、一般的なアップデート管理タスクを説明します。

タスク	説明	参照先
システムを分析してアップデートのリストを作成する	適切なアップデートのリストを取得するには、システムを分析する必要があります。この分析に基づいて、リスト内の 1 つ以上のアップデートでシステムをアップデートできます。 GUI には適切なアップデートのリストが表示されます。分析を実行するたびに、必要な新しいアップデートが追加されて、アップデートのリストが変更されます。	54 ページの「アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートのリストを表示する方法 (GUI)」
1 度の処理で 1 つまたは複数のアップデートを適用する	システムに適したアップデートをダウンロードして適用できます。アップデートのリストは、Update Manager がシステムを分析して作成します。	54 ページの「システムにアップデートを適用する方法 (GUI)」
システムからアップデートを削除する	システムに適用したアップデートの削除またはバックアウトを実行できます。	56 ページの「インストールしたアップデートを表示してシステムからアップデートを削除する方法 (GUI)」

▼ アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートのリストを表示する方法 (GUI)

システムに適したアップデートを判断するために、システム分析を手動で開始するには、次の手順を実行します。

デフォルトでは、システムは1日に1回分析されます。自動分析機能が無効な場合は、この機能を有効にできます。58 ページの「毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)」を参照してください。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。

47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2. 「有効なアップデート」画面で、「アップデートをチェック」をクリックします。

「システムを分析」ダイアログボックスに、分析の進捗状況が表示されます。システムに適したアップデートの一覧が、「有効なアップデート」画面に表示されます。

▼ システムにアップデートを適用する方法 (GUI)

システムに1つ以上のアップデートを適用するには、この手順を実行します。

インストールしたアップデートを有効にするためにシステムの再起動が必要な場合（「再起動が必要」）、アップデートのインストールは次のシステムシャットダウン時に行われます。再起動が必要なアップデートを適用するには、次のコマンドのいずれかを使用してシステムシャットダウンを開始する必要があります。

- システムの電源オフ - `init 0` または `shutdown -i 0`
- ファームウェアプロンプトへの移動 - `init 5` または `shutdown -i 5`
- システムの再起動 - `init 6` または `shutdown -i 6`

注 - シャットダウンを開始する際は、`reboot` コマンド、`halt` コマンド、`uadmin` コマンドを使用したり、リセットボタンや電源ボタンを押したりしないでください。これらの操作を行うと、必要なシャットダウン処理が省略されるため、アップデートがインストールされなくなります。仮に必要なシャットダウン処理を省略しても、アップデートのインストールはシステムの再起動時に行われます。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。

47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2. 「有効なアップデート」画面へ移動します。

この画面には、システムに適したアップデートの一覧が表示されます。

3. (省略可能) 「アップデートをチェック」をクリックして、システムのアップデート分析を実行します。

毎日のアップデート分析を無効にした場合は、この分析を行ってください。
4. インストールする 1 つ以上のアップデートを選択します。

インストールできるのは、チェックボックスがあるアップデートのみです。アップデート ID の横にダッシュがあるアップデートは、次に予定されているシステムシャットダウン時にインストールするように設定されています。

インストールボタンの名前は、選択したアップデートの数で変わります。たとえば、1 つのアップデートを選択すると、ボタン名は「1 項目を今すぐインストール」になります。2 つのアップデートを選択すると、ボタン名は「2 項目を今すぐインストール」になります。
5. 「項目を今すぐインストール」をクリックします。

「インストール中」ダイアログボックスに、システム分析の進捗状況が表示されます。選択したアップデートが、システムにインストールされている他のアップデートに依存するかどうかを判断するために、この分析が実行されます。このダイアログには、アップデートのダウンロードおよびインストール操作の進捗状況も表示されます。「キャンセル」をクリックすると、この操作をキャンセルできます。

「インストール完了」ダイアログボックスに、選択したアップデートのインストールのステータスが表示されます。
6. (省略可能) 1 つまたは複数の依存パッチを持つアップデートを選択した場合、それらの依存パッチのインストールに同意します。

「必要な追加アップデート」ダイアログボックスに、インストールする必要のあるその他のアップデートが表示されます。

 - 「次へ」をクリックして、アップデートをインストールします。

アップデートがインストールされます。
 - インストールをキャンセルするには、「キャンセル」をクリックします。

操作をキャンセルすると、アップデートはインストールされません。
7. (省略可能) システムの再起動が必要なアップデートを選択した場合は、今すぐシステムを再起動するか後で再起動するかを決定します。

「インストール完了」ダイアログボックスに、インストールされたアップデートおよび、インストールが成功したか失敗したかが表示されます。システムの再起動が必要な(「再起動が必要」)アップデートをインストールする必要がある場合、アップデートをインストールするためにシステムを再起動するかをたずねられます。

 - すぐにシステムを再起動するには、「今すぐシステムを再起動」をクリックし、「OK」をクリックします。

システムを再起動する必要がないアップデートは、すぐにインストールされます。

「システムの再起動」ダイアログボックスに、システムを今すぐ再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

 - システムを再起動するには「はい」をクリックします。

Update Manager がシステムを再起動し、再起動が必要なアップデートがインストールされます。

- 「システムの再起動」ダイアログボックスを閉じるには「いいえ」をクリックします。
- 後でシステムの再起動を行う場合は、「OK」をクリックします。

注 – システムを再起動する際は `init` コマンドまたは `shutdown` コマンドのみを使用してください。それ以外の方法でシステムを再起動すると、再起動が必要な待機中のアップデートがインストールされません。

システムの再起動を必要としないアップデートはすぐにインストールされます。一方、再起動が必要なアップデートは待機状態になり、次のシステム再起動時にインストールされます。

▼ インストールしたアップデートを表示してシステムからアップデートを削除する方法 (GUI)

システムにインストールされたアップデートのリストを表示して、1 つまたは複数のアップデートを削除するには、この手順を実行します。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。

47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2. 「有効なアップデート」画面で、「インストール済みアップデート」をクリックします。

「インストール済みアップデート」画面に、システムにインストールされたアップデートのリストが示されます。

3. 削除する 1 つ以上のアップデートを選択します。

削除できるのは、チェックボックスがあるアップデートのみです。アップデート ID の横にダッシュがあるアップデートは削除できません。

アンインストールボタンの名前は、選択したアップデートの数で変わります。たとえば、1 つのアップデートを選択すると、ボタン名は「選択した 1 個の更新のアンインストール」になります。2 つのアップデートを選択すると、ボタン名は「選択した 2 個の更新のアンインストール」になります。

4. 「選択した更新のアンインストール」をクリックします。

「アンインストールの確認」ダイアログボックスに、削除するアップデートが示されます。同時に削除する必要のある依存パッチも表示されます。

5. 選択したアップデートをアンインストールするには、「次へ」をクリックします。

「アンインストール中」ダイアログボックスに、操作の進捗状況が表示されます。「キャンセル」をクリックすると、アンインストールの操作をキャンセルできます。

アップデートがアンインストールされると、「アンインストール完了」ダイアログボックスに、アンインストールされたアップデートおよびそのアンインストール処理が成功したか失敗したかが表示されます。ダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

グラフィカルユーザーインターフェースを使用してアップデート管理環境を調整する(タスクマップ)

GUI を使用すると、システムのアップデート管理環境を調整できます。次の表では、これらの調整作業を説明します。これらの作業は省略可能です。

`smpatch` コマンドを使用してアップデート管理環境を調整する場合は、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

タスク	説明	参照先
(省略可能) 別のディレクトリの場所を設定する	デフォルトの場所に十分な容量がない場合、ダウンロードディレクトリまたはバックアウトディレクトリとして別の場所を指定します。	58 ページの「アップデートディレクトリの場所を変更する方法 (GUI)」
(省略可能) 定期的なアップデート分析のスケジュールを設定して適切なアップデートのリストを作成する	システムを定期的に分析して、適切なアップデートのリストを作成します。デフォルトでは、分析は毎日実行されます。	58 ページの「毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)」
(省略可能) システムを別のサンオンラインアカウントに割り当てなおす	登録済みシステムの所有者を、別のサンオンラインアカウントに変更します。	59 ページの「システムを別のサンオンラインアカウントに割り当てなおす方法 (GUI)」
(省略可能) GNOME デスクトップに Update Manager の通知アイコンとメニューを表示する	これらのアイコンを使用して、Sun Update Manager GUI と Sun Update Connection サービスにアクセスします。またこれらのアイコンでは、使用中のシステムで利用可能なアップデートの情報、およびそのタイプの情報が得られます。	59 ページの「GNOME デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法 (GUI)」

▼ アップデートディレクトリの場所を変更する方法 (GUI)

この手順では、ダウンロードディレクトリやバックアウトデータディレクトリ、あるいはその両方に対して代替的な場所を指定する方法を説明します。デフォルトでは、ダウンロードディレクトリは /var/sadm/spool です。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
「プリファレンス」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。
3. 使用可能な代替ディレクトリの場所があれば、「ディレクトリ」セクションでその場所を指定します。
 - 「ダウンロード用ディレクトリ」フィールドに、ダウンロードディレクトリの代替的な場所を入力します。
 - 「バックアウトデータ用ディレクトリ」フィールドに、バックアウトデータディレクトリの代替的な場所を指定します。
4. 一方または両方の場所を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ 毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)

デフォルトでは、アップデートの自動分析が 1 日 1 回実行されますこの分析では、指定したアップデートゼスを使用します。分析操作の後で、「有効なアップデート」画面のリストに沸されるのは、システム登録とサブスクリプションキーに基づいてアクセスを許可されたアップデートのみです。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。
「プリファレンス」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。
3. 「通知」をクリックします。
「プリファレンス」ダイアログボックスの「通知」画面が表示されます。

4. 「アップデート分析」セクションで、システムに対して自動アップデート分析を実行するかどうかを指定します。
 - 自動分析操作を有効にするには、「アップデート分析を毎日実行する (推奨)」を選択します。
 - 自動分析操作を無効にするには、「アップデート分析を実行しない」を選択します。
5. この値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ システムを別のサンオンラインアカウントに割り当てなおす方法 (GUI)

この操作は、システムの登録を済ませてから実行してください。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。
47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
2. 「ファイル」メニューから「サブスクリプションの管理」を選択します。
「サブスクリプションの追加」ダイアログボックスが表示されます。
3. 別のサンオンラインアカウントの情報を入力します。
 - a. 「ユーザー名」フィールドに別のユーザー名を入力します。
 - b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
4. (省略可能) 「キー」フィールドにサブスクリプションキーを入力します。
5. 変更内容を保存してダイアログボックスを閉じるには、「完了」をクリックします。変更内容を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ GNOME デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法 (GUI)

これらのアイコンは GNOME デスクトップのみに表示され、これらのアイコンにより Sun Update Manager GUI と Sun Update Connection サービスにアクセスできます。またこれらのアイコンでは、使用中のシステムで利用可能なアップデートの情報、およびそのタイプの情報が得られます。

次のアイコンのいずれかを右クリックすると、その通知アイコンにリンクされたメニュー項目が表示されます。アイコンを左クリックすると、Update Manager アプリケーションが起動します。



- 疑問符の付いた青い円形 - このシステムが未登録であることを示します。アイコンメニューから登録ウィザードを開いて、Update Manager および Sun Update Connection ツールの詳細を参照できます。
- マークの付いていない緑の円形 - このシステムに対して新しいアップデートが検出されなかったことを示します。毎日のアップデート分析を無効にした場合に、この状態インジケータが表示されることがあるので注意してください。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection Web サイトにアクセスできます。
- 感嘆符の付いた黄色の円形 - システムで利用可能なセキュリティ以外のタイプのアップデート数を示します。このアイコンは、システムを登録して、Sun Update Manager サブスクリプションがある場合にのみ表示されます。また、この通知を受け取るには、毎日のシステム分析を有効にしておく必要があります。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection Web サイトにアクセスできます。
- 感嘆符が 2 つ付いた赤い円形 - システムで利用可能な新しいアップデートの合計数およびセキュリティタイプのアップデートの数を示します。この通知を受け取るには、毎日のシステム分析を有効にしておく必要があります。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection Web サイトにアクセスできます。

1. Sun Update Manager GUI にアクセスします。

47 ページの「Sun Update Manager アプリケーションのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2. 「ファイル」メニューから「プリファレンス」を選択します。

「プリファレンス」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。

3. 「通知」をクリックします。

「プリファレンス」ダイアログボックスの「通知」画面が表示されます。

4. 「通知のアイコンとメニュー」セクションで、通知のアイコンとメニューを表示するかどうかを指定します。

- この機能を有効にするには、「通知のアイコンとメニューの表示」を選択します。
- この機能を無効にするには、「通知のアイコンとメニューの表示」の選択を解除します。

5. 値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

Sun Update Connection プロキシの設定

この章では、Solaris 10 システムで Sun Update Connection プロキシ（ローカルパッチサーバーともいう）を設定する方法について説明します。次のタスクに関連した情報が対象となります。

- 62 ページの「 Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ) 」
- 63 ページの「 Sun Update Connection プロキシの設定 」

Sun Update Connection プロキシは、Sun Update Connection, System Edition 1.0 および Sun Patch Manager 2.0 を使用しているクライアントシステムでサポートされます。Sun Update Connection クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 に関連付けられている旧バージョンのローカルパッチサーバー機能との互換性はありません。

注 – Sun Update Connection プロキシはオプション機能です。Sun とサポートサービス契約を結んでいる場合に限り、無料で取得できます。Sun のサポートサービスの詳細については、Solaris Operating System Software Support Web サイト <http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスして、該当するサービスを選択してください。

プロキシをインストールする方法については、31 ページの「 Sun Update Connection プロキシの機能アップデートをインストールする方法 」または 32 ページの「 Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする方法 」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシの設定 (タスクマップ)

次の表は、イントラネット上のアップデートサーバーを設定する場合に、`patchsvr setup` コマンドを使用して実行できるタスクを示したものです。`patchsvr(1M)` のマニュアルページを参照してください。

タスク	説明	参照先
Sun Update Connection プロキシの初回設定。	お使いのシステムを Sun Update Connection プロキシとして使用する場合は、まず次のタスクを実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• プロキシソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認します。• (省略可能) ネットワークプロキシの指定方法など、システムの設定を変更します。• システムを有効にして、Sun Update Connection プロキシとして機能するようにします。• Sun Update Connection プロキシをアップデートのソースとして使用するようには、クライアントシステムを設定します。	64 ページの「Sun Update Connection プロキシの初期設定方法 (コマンドライン)」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシの設定情報の取得。	この情報は、問題の診断または指定した設定の確認に利用できます。	69 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を表示する方法 (コマンドライン)」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシの設定の変更。	デフォルトでは、プロキシは直接インターネットに接続して、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得します。デフォルトの設定と実際のアップデート管理環境が合わない場合は、適切な設定に変更します。	70 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンドライン)」

Sun Update Connection プロキシの設定

クライアントシステムはデフォルトで、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するように設定されています。次の場合、Sun Update Connection プロキシが必要となります。

- クライアントシステムがインターネットに接続できない場合。
- クライアントシステムと Sun アップデートサーバーの間で、インターネットトラフィックを最小限に抑える場合。

注 – Sun Update Connection プロキシはオプション機能です。Sun とサポートサービス契約を結んでいる場合に限り、無料で取得できます。Sun のサポートサービスの詳細については、Solaris Operating System Software Support Web サイト <http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスして、該当するサービスを選択してください。

詳細については、12 ページの「Sun Update Connection プロキシ」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定する

Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定し、そのプロキシが使用されるようにクライアントシステムを設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Sun Update Connection プロキシを設定して起動します。
64 ページの「Sun Update Connection プロキシの初期設定方法 (コマンドライン)」を参照してください。
2. クライアントシステムまたはシステムを設定して、Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得するようにします。
50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

これらのタスクが完了すると、クライアントシステムは Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得できるようになります。45 ページの「Sun Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理」を参照してください。

設定の要件

Sun Update Connection プロキシは、次のソースからアップデートおよびアップデートデータを取得する必要があります。

- **アップデートサーバー。** アップデートサーバーは、Sun アップデートサーバーか、または一連のアップデートサーバーに組み込まれた別の Sun Update Connection プロキシのいずれかになります。Sun アップデートサーバーが、デフォルトのアップデートソースです。
- **アップデートのローカルコレクション。** ローカルシステムで使用可能なディレクトリに保存されているアップデートおよびアップデートデータのコレクションです。このディレクトリには、ローカルディレクトリや共有ネットワークディレクトリ、ローカルシステムにマウントされた CD があります。

Sun Update Connection プロキシを設定したら、このプロキシと通信するように、各クライアントシステムを設定する必要があります。これで、クライアントシステムを使用してこのプロキシからアップデートを取得できるようになります。

注 – Sun Update Connection プロキシのクライアントであるシステムをイントラネット上でローカルで管理している場合、そのクライアントシステムを登録する必要はありません。プロキシとして動作するシステムは登録する必要があります。ただし、クライアントシステムが Sun Update Connection サービスによってリモートでも管理されている場合は、そのクライアントシステムも登録する必要があります。

コマンドラインインタフェースを使用した Sun Update Connection プロキシの設定

Sun Update Connection プロキシを設定して有効にするには、patchsvr コマンドを使用します。patchsvr(1M) のマニュアルページを参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシの初期設定方法 (コマンドライン)

システムを Sun Update Connection プロキシとして使用するには、まず最初に、確実にプロキシソフトウェアをインストールし、プロキシを設定して起動し、そのプロキシと通信できるようにクライアントを設定する必要があります。

注 – Sun Update Connection プロキシは、Sun Update Connection, System Edition 1.0 および Sun Patch Manager 2.0 を使用しているクライアントシステムでサポートされます。Sun Update Connection クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 に関連付けられている旧バージョンのローカルパッチサーバー機能との互換性はありません。

イントラネット上で Sun Update Connection プロキシとして動作させるシステムは、次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- Developer Solaris Software Group (SUNWCdev) が最低限インストールされている Solaris 10 システム
- Sun Update Manager 1.0 ソフトウェア

注 – Sun Update Connection プロキシがネットワークプロキシを使用してインターネットに接続する場合は、ネットワークプロキシに関する情報を指定する必要があります。70 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンドライン)」を参照してください。

1. Sun Update Connection プロキシとして使用する予定のシステムに、スーパーユーザーとしてログインします。
2. SUNWpsvru および SUNWpsvrr パッケージがシステムにインストールされていることを確認します。

# pkginfo	grep SUNWpsvr	
system	SUNWpsvrr	Patch Server Deployment (Root)
system	SUNWpsvru	Patch Server Deployment (Usr)

3. パッケージがインストールされていない場合は、このタスクを続ける前にそれらをインストールする必要があります。
4. Update Manager を使用してこのシステムを登録します。
37 ページの「Sun Update Manager によるシステムの登録 (タスクマップ)」を参照してください。
5. 必要に応じて、Sun Update Connection プロキシがインターネットへの接続に使用するネットワークプロキシを指定します。

```
# patchsvr setup -x ネットワークプロキシ名:ポート
```

ネットワークプロキシ情報がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

6. アップデートソースを指定します。

Sun Update Connection プロキシには、別のアップデートソースを指定できます。このアップデートソースは、プロキシが実行できないアップデートダウンロード要求を実行するために使用されます。デフォルトでは、Sun Update Connection プロキシのアップデートソースは Sun アップデートサーバーです。

- Sun Update Connection プロキシの連鎖内で次のアップデートサーバーを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p http://サーバー名:3816/solaris/
```

- Sun Update Connection プロキシのアップデートコレクションを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p file:///ディレクトリ名
```

アップデートのローカルコレクションは、ディレクトリ、CD、またはリモートファイルシステムに格納できます。

- デフォルトの Sun アップデートサーバーを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p https://getupdates.sun.com/solaris/
```

7. Sun Update Connection プロキシを起動します。

```
# patchsvr start
```

8. (省略可能) Sun Update Connection プロキシを有効にして、システムの起動時に起動するようにします。

```
# patchsvr enable
```

例 : Sun Update Connection プロキシの初期設定

ここで紹介する例では、Sun Update Connection プロキシソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認します。

- 次の例では、連鎖内にある別のプロキシを指定するように Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。2つの建物にあるシステムにサービスを提供するため、2つのプロキシを設定すると仮定します。

Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するように `psvr1` を設定します。また `psvr1` では、インターネットへの接続にネットワークプロキシが使用されています。Sun Update Connection プロキシを使用可能にするには、まずネットワークプロキシのホスト名 `networkproxy1` とポート番号 `2010` を指定する必要があります。`psvr1` を設定したら、これを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
psvr1 # pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
psvr1 # patchsvr setup -x networkproxy1:2010
psvr1 # patchsvr setup -p https://getupdates.sun.com/solaris/
psvr1 # patchsvr start
Starting Local Patch Server
psvr1 # patchsvr enable
```

`psvr1` からアップデートを取得するように `psvr2` を設定するには、サーバーの URL として `http://psvr1:3816/solaris/` を指定します。`psvr2` を設定したら、これを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
psvr2 # pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
psvr2 # patchsvr setup -p http://psvr1:3816/solaris/
psvr2 # patchsvr start
Starting Local Patch Server
psvr2 # patchsvr enable
```

両方のアップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これらのサーバーを使用するようにクライアントシステムを設定します。50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

- 次の例では、 /export/updates ディレクトリにあるアップデートのローカルコレクションからアップデートを取得するように、 Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。このディレクトリの URL は、 file:///export/updates です。プロキシの設定が完了したら、プロキシを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///export/updates
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

- 次の例では、プライマリ CD-ROM ドライブの CD 上にあるアップデートのローカルコレクションからアップデートを取得するように、 Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。この CD の URL は、 file:///cdrom/cdrom0 です。プロキシの設定が完了したら、プロキシを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///cdrom/cdrom0
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

- 次の例では、リモートシステムにあるアップデートのコレクションからアップデートを取得するように、Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。このディレクトリの URL は、`/net/mars/export/updates` です。プロキシの設定が完了したら、プロキシを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///net/mars/export/updates
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。50 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシの設定を表示する方法 (コマンドライン)

Sun Update Connection プロキシの設定をチェックして、問題の診断に利用したりアップデート関連のサーバー設定を把握することができます。

次のような情報が表示されます。

- **アップデートコレクションの場所。** アップデートのソースです。要求したアップデートがローカルサーバーで有効にならない場合は、ここを確認します。
 - **ネットワークプロキシ情報。** インターネットに接続する際に使用されるネットワークプロキシのホスト名とポートです。
 - **アップデートキャッシュの場所。** アップデートがキャッシュされているディレクトリです。
1. Sun Update Connection プロキシに、スーパーユーザーとしてログインします。
 2. プロキシの設定のリストを表示します。

```
# patchsvr setup -l
Patch source URL: https://getupdates.sun.com/solaris/
Cache location: /var/sadm/spool/patchsvr
Web proxy host name: mars
Web proxy port number: 8080
```

▼ Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンドライン)

Sun Update Connection プロキシの設定を変更するには、まずプロキシを停止する必要があります。 `patchsvr setup` コマンドを使用して設定を変更したら、プロキシを再起動します。

変更可能な設定の詳細については、 `patchsvr(1M)` のマニュアルページを参照してください。

1. Sun Update Connection プロキシとして使用する予定のシステムに、スーパーユーザーとしてログインします。
2. プロキシを停止します。

```
# patchsvr stop
```

3. コマンドラインごとに 1 つ設定を変更し、これを繰り返します。

たとえば、ネットワークプロキシに `network-proxy-name`、ポートに `port` を指定する場合、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -x network-proxy-name:port
```

4. プロキシを起動します。

```
# patchsvr start
```

例 : Sun Update Connection プロキシの設定の変更

この例では、Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法を説明します。Sun Update Connection プロキシでは、インターネット接続にネットワークプロキシが使用されています。まず Sun Update Connection プロキシを停止し、次にネットワークプロキシのホスト名に `networkproxy1` を、ポート番号に `2010` を指定します。

その後、連鎖内の次に来る Sun Update Connection プロキシを指定します。2 つの建物にあるシステムにサービスを提供するため、2 つのプロキシを設定すると仮定します。 `psvr1` サーバーは、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得します。第 2 のサーバーである `psvr2` は、`psvr1` からアップデートを取得します。`psvr1` からアップデートを取得するように `psvr2` を設定するには、サーバーの URL として `http://psvr1:3816/solaris/` を指定します。

```
# patchsvr stop
Shutting down Local Patch Server
# patchsvr setup -x networkproxy1:2010
# patchsvr setup -p http://psvr1:3816/solaris/
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
```

用語集

このマニュアルでは、次の用語を使用します。

P

PatchPro Sun ネットワークストレージが開発した製品であり、Sun Update Manager で使用する自動的なアップデート管理テクノロジーを提供します。

S

Sun Update Connection サービス Sun Web サイト上で提供される Web アプリケーションで、これを使用することにより 1 つまたは複数の Solaris システム上でアップデートをリモート管理できます。

Sun Update Connection プロキシ アップデートのデータにアクセスできる、イントラネット上のシステムです。Sun アップデートサーバーの代わりにこのプロキシを使用することができます。このプロキシでは、アップデートソースからダウンロードしたアップデートをキャッシュします。ローカルパッチサーバーともいいます。

W

Web プロキシ 「ネットワークプロキシ」を参照してください。

あ行

アップデート (名詞) 既存の問題を解決するため、または機能を導入するために、ソフトウェアに適用する変更です。

(動詞) システムにアップデートを適用するために必要な手順を実行することで、システムを分析して、アップデートをダウンロードし、最後にアップデートを適用します。

アップデート ID アップデートベースコード、ハイフン、アップデートリビジョン番号で構成される固有の英数字です。

アップデート管理のプロセス

このプロセスには、システムを分析して適切なアップデートを判断する処理、アップデートをシステムにダウンロードする処理、アップデートを適用する処理があります。アップデート管理のプロセスでは、任意にアップデートを削除する場合があります。

アップデートサーバー

システムがアップデート分析を実行するために使用する Solaris アップデートのソースであり、このソースから適切なアップデートを取得します。アップデートサーバーは、Sun アップデートサーバーである場合と、Sun Update Connection プロキシと呼ばれるイントラネット上のサーバーである場合があります。

アップデート適用のポリシー

ユーザーが設定できるポリシーであり、システムのアップデート時に適用できるアップデートのタイプを指定します。

パッチともいいます。

アップデートの依存性

システムでアップデートが他のアップデートの存在に依存する状況です。他のアップデートに依存するアップデートは、依存する他のアップデートがすでに適用されたシステムにのみ適用できます。

アップデートの旧バージョン化

特定のアップデートで古いアップデートを置き換える状況です。その時点で、古いアップデートがシステムに適用されているかどうかは関係ありません。バージョンが1つ以上新しくなるアップデートは、古いアップデートをまとめて置き換えます。新しいアップデートを適用する前に、古いアップデートが適用されている必要はありません。

アップデートの 非互換性	同じシステムに 2 つのアップデートを適用できないまれな状況です。これらの 2 つのアップデートは相互に排他的な関係にあります。システムにすでに特定のアップデートが適用されており、これと互換性のない別のアップデートを適用する場合、システムにすでにあるアップデートを最初に削除する必要があります。削除すると、新しいアップデートを適用できます。
アップデート分析	システムに適したアップデートを判断するために、システムをチェックする処理です。
アップデートリスト	1 行に 1 アップデート ID の形式で、アップデートのリストを保存したファイルです。アップデート操作の実行に、このリストを利用できます。システムの分析やユーザーの入力に応じて、このリストを生成できます。 アップデートリストの各行には、2 つの列があります。最初の列はアップデート ID であり、第 2 の列はアップデートの概要です。
依存性	「アップデートの依存性」を参照してください。

か行

解決	アップデートのリストに対して必要なアップデートの依存性を判断することです。他のアップデートをリストに追加する必要があるかどうかを判断するために、リスト内の各アップデートがチェックされます。特定のアップデートが必要とされる場合、これらのアップデートが順序に沿って並べられたアップデートリストに追加されます。
キーストア	署名されたアップデートの適用を試行するときに照会される証明書とキーのレポジトリです。
機能アップデート	システムに新しい機能を導入するアップデートです。
キャッシュ	一連のアップデートサーバーに組み込まれたサーバーが、他のサーバーからダウンロードしたアップデートを格納する機能です。

さ行

サブスクリプション キー	Sun Update Manager で Solaris 10 システムを登録する際に使用する値です。このキーにより、セキュリティ以外のタイプのアップデートおよび Sun Update Connection サービスにアクセスすることができます。
-----------------	---

サンオンライン アカウント

Sun Update Manager を使用するために、システムを登録するときが必要とされるアカウントです。また、システムのアップデートを管理できる Sun Update Connection Web サイトにログインするときが必要とされるアカウントです。

順序 アップデートの適用に適した順序で、アップデートをソートします。

署名付きアップデート 有効なデジタル署名で署名されたアップデートです。署名付きアップデートは、署名なしアップデートよりもセキュリティが強化されます。アップデートのデジタル署名は、アップデートをシステムに適用する前に検証できます。有効なデジタル署名は、署名の適用後に、署名付きアップデートが変更されていないことを保証します。署名されたアップデートは、Java Archive (JAR) 形式ファイルに保存されます。

署名なしアップデート デジタル署名で署名されていないアップデートです。

た行

ダウンロード Sun Update Connection プロキシまたは Sun アップデートサーバーなどのアップデートソースから、アップデートを適用するシステムに対して、1 つ以上のアップデートをコピーすることです。

**ダウンロード
ディレクトリ** アップデートソースからダウンロードするときに、アップデートを格納するディレクトリです。またこのディレクトリからアップデートが適用されます。デフォルトの場所は /var/sadm/spool です。

チェックイン システムが Sun Update Connection Web サイトに接続して、待機状態になっているアップデートのインストールおよびアンインストールジョブを実行することです。

適用 システムにアップデートをインストールすることです。

デジタル署名 署名の適用後に、アップデートなどのドキュメントが変更されていないことを保証できる電子的な署名です。

登録 Sun Update Manager ソフトウェアを使用するために、Solaris システムを登録することです。

な行

ネットワークプロキシ システムをインターネットに接続するシステムです。ユーザーのシステムがインターネットに直接に接続できない場合、接続を確立するために、このネットワークプロキシを使用する必要があります。Web プロキシともいいます。

は行

- バックアウト** システムからアップデートを削除することです。
- バックアウトディレクトリ** バックアウトデータを格納するディレクトリです。デフォルトでは、アップデートでインストールされた各パッケージの `install` ディレクトリです。
- バックアウトデータ** アップデートを削除 (バックアウト) するときに、以前の状態にシステムを戻すことができるように、アップデートの適用時に作成されるデータです。
- パッケージ** システムにインストールするために配布されるソフトウェア製品の形態です。パッケージには、一連のファイルとディレクトリが一定の形式で収録されています。
- パッチ** 「アップデート」を参照してください。
- 分析** システムに適したアップデートのリストを判断するために、システムを検査することです。
- Update Manager** は、分析モジュールと Sun アップデートサーバーにある利用可能なアップデートのリストを使用して、お使いの Solaris システムに適したアップデートのリストを生成します。

ら行

- リモートモード** `smpatch` コマンドで使用できるモードです。このモードは、アップデートで他のシステムをアップデートするために、ローカルシステム上で実行できます。このモードは、システムがマルチユーザーモードである場合に限って使用できます。
- ローカルパッチサーバー** 「Sun Update Connection プロキシ」を参照してください。
- ローカルモード** `smpatch` コマンドで利用できるモードです。このモードは、ローカルシステムのみで実行できます。システムがシングルユーザーモードまたはマルチユーザーモードのときに、アップデートを適用するために、このモードを使用できます。

索引

P

PatchPro 分析エンジン, 14

S

smpatch コマンド

 コマンドラインインタフェース, 8, 17

 リモートモードでの実行, 15

 ローカルモードでの実行, 15

Sun Update Connection サービス, 12

 アップデートソースの指定, 65

 システムの管理, 52

 使用, 12

Sun Update Connection プロキシ, 12

 使用, 12

 使用する利点, 13

 設定の表示, 69

 設定の変更, 70

Sun Update Connection プロキシの設定の

表示, 69

Sun Update Manager

 Update Manager を参照

U

Update Manager

 PatchPro 分析エンジン, 14

 smpatch コマンド, 17

 アップデートリストの操作, 16

 依存するアップデート, 22

 インストール, 27

 インタフェースの比較, 3

 機能, 11

 機能の概要, 3

 グラフィカルユーザーインタフェース
 (GUI), 11, 17

 コマンドラインインタフェース, 17

 サブスクリプションキーの取得, 43, 51, 59

 システムの登録, 18, 37

 他ツールとの比較, 6

 必要な Solaris ソフトウェア, 11, 27

 目的, 17

V

/var/sadm/patch ディレクトリ, 8

あ

アクセス

 Update Manager GUI, 47

 アップデート管理ツール, 46

アップグレード

 プレビューリリースから Sun Update
 Connection, System Edition 1.0 への
 アップグレード, 33

アップデート

 Solaris のアップデートへのアクセス, 5

 Update Manager が依存する, 22

 アップデートの README ファイル, 6

 使用する用語, 71

 署名付き, 5

 署名なし, 5

- ソース, 23
- ダウンロード, 54
- ツールとコマンド (概要), 6
- 定義, 5
- 適用するツール, 6
- 適用に最適な方法の選択, 6, 9
- ナンバリングスキーム, 6
- アップデート管理環境の設定, 48
- アップデート管理ツール
 - 概要, 6
 - 選択, 6, 9
- アップデート管理プロセス
 - Update Manager の使用, 20
 - アップデートをシステムにダウンロード, 21
 - アップデートをシステムに適用, 22
 - システムからアップデートを削除, 22
 - システムにアップデートを適用できるかを分析, 21
- アップデートソース, 23
 - Sun Update Connection プロキシ, 23
 - 指定, 65
 - アップデートサーバー, 23
 - 指定, 23, 49, 50
 - アップデートのローカルコレクション, 23
- アップデートディレクトリの場所、変更, 58
- アップデート適用
 - ポリシー, 24
- アップデート適用のポリシー, 24
- アップデートでシステムをアップデート, 54
- アップデートの削除, 22, 56
- アップデートのダウンロード, 21
- アップデートの適用, 22
 - グラフィカルユーザーインターフェースの使用, 54
 - コマンドラインインターフェースの使用, 48
 - 最適な方法の選択, 6, 9
- アップデートリストの操作, 16
- アップデートリスト、表示, 54

い

- インストール
 - Sun Download Center からの Sun Update Connection プロキシソフトウェアのインストール, 32
 - Sun Download Center からの Update Manager ソフトウェアのインストール, 30
 - Sun Update Connection プロキシの機能アップデート, 31
 - Sun Update Connection プロキシの機能アップデート, 31
 - Update Manager, 27
 - Update Manager の機能アップデート, 29

か

- 管理
 - Sun Update Connection サービスでシステムを管理, 52
 - Sun Update Connection サービスによるアップデート, 23
 - システム、リモート, 52

く

- グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)
 - Update Manager, 6, 11, 17
 - Update Manager へのアクセス, 46
 - アップデート管理環境の設定, 48
 - アップデート管理環境の調整, 57
 - アップデートの管理, 37, 46, 53

こ

- コマンドラインインターフェース
 - smpatch コマンド, 17
 - リモートモード, 15
 - ローカルモード, 15
 - Update Manager, 17

さ

- サーバー
 - アップデート, 23
 - パッチ
 - ローカル, 13
- サブスクリプションキーの取得, 43, 51, 59
- サンオンラインアカウントの作成, 38

し

- システムにアップデートを適用できるかを分析, 21, 54
- システムにアップデートを適用できるかを分析
毎日実行するようにスケジュール設定, 58
- システムの登録, 37, 38, 39
 - Update Manager の使用, 18
- システム要件
 - Sun Update Connection プロキシ, 13
 - Update Manager, 11, 27
- 署名付きアップデート, 5
- 署名付きアップデートのデジタル署名, 5
- 署名なしアップデート, 5

す

- スケジュール
 - アップデートを毎日分析, 58

た

- ダウンロードディレクトリ
 - アップデートの変更, 58

ち

- 調整、アップデート管理環境の, 57

つ

- ツール、概要, 6

と

- 登録、サービスのレベル, 18

は

- バックアウト
 - 削除を参照
- バックアウトディレクトリ
 - アップデートの変更, 58
- パッチ
 - アップデートを参照

ひ

- 表示
 - Sun Update Connection プロキシの設定, 69
 - アップデートの一覧, 54
 - アップデートリスト, 54

ふ

- プロキシ
 - Sun Update Connection, 12
 - ネットワーク, 49

へ

- 変更
 - アップデートディレクトリの場所, 58
 - アップデート適用のポリシー, 24
 - 設定
 - Sun Update Connection プロキシ, 70

り

- リモートモード
 - smpatch の実行, 15

ろ

- ローカルパッチサーバー
 - Sun Update Connection プロキシ を参照
- ローカルモード
 - smpatch の実行, 15
 - シングルユーザーモードの操作, 15

